

# 史跡斎宮跡

令和2年度現状変更緊急発掘調査報告

令和4（2022）年2月

明 和 町



## 序

史跡斎宮跡の発掘調査が開始され50年以上が経過しました。この間、数多くの重要な発見が積み重ねられるとともに、地域住民の皆様の「理解と納得と協力」を得ながら、史跡の保存と活用が図られ、三重県が今年度に実施した計画調査は節目の第200次調査を迎きました。平成29年度から竹川地内で実施してきた計画調査の成果から、飛鳥時代の中核域と推定される掘立柱塙による区画について、規模並びに「正殿」、南北棟の規模や配置が明らかになるなど、斎宮跡を解明する上で重要な発見が相次ぎました。

一方、一般社団法人明和観光商社では、国の既存観光拠点再生・高付加価値化推進事業を活用し、長年の課題であった近鉄斎宮駅のトイレの美装化に近畿日本鉄道株式会社及び明和町との協力のもと着手いただき、3月から来訪者に供用されています。また、さいくう平安の杜の復元建物を活用したプロジェクトマッピングの実施など、町や関係団体と連携した史跡斎宮跡の活用が進められています。今後も民間の力を得て、史跡のさらなる保存と活用が進むことに期待を寄せているところです。

本町では、「明和町歴史的風致維持向上計画」に基づき、史跡西端を流れる祓川に神宮橋を数十年振りに架け直すとともに、史跡内の周遊性の向上及び来訪者の利便性の向上に期待をした祓戸広場の整備も進めているところです。町では計画に基づき史跡内の環境整備を今後も引き続き進めてまいります。また、認定を受けている「明和町文化財保存活用地域計画」や「日本遺産」制度も引き続き活用し、斎宮跡の積極的な情報発信に努め、史跡斎宮跡の保存と活用を一層図ってまいります。

さて、本書は史跡地内で個人住宅等の建設などに伴い発掘調査が必要であった13件の結果についてまとめたものです。調査に際しご理解とご協力いただきました地元地権者の皆さま、発掘調査から報告書作成に至るまでご指導、ご協力いただきました斎宮歴史博物館調査研究課の方々に厚くお礼申し上げます。

令和4（2022）年3月

三重県多気郡明和町

町長 世古口 哲哉

## 例 言

- 1 本書は、令和2（2020）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査のうち、第198-1・2・5・9・10・13次調査は事業者の明和町が費用を全額負担したが、それ以外については文化庁及び三重県の補助金を受けて実施している。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。
- 4 調査区名の表示方法（例：GAL13）については、斎宮歴史博物館2003『史跡斎宮跡 平成13年度発掘調査概報』による。
- 5 遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表示している。
- 6 遺構・遺物の時期区分については、斎宮歴史博物館2019『斎宮跡発掘調査報告Ⅱ 柳原区画の調査 出土遺物編』に掲り、その標記については「斎宮跡I期第1段階」と表記するが、本文中ではこれを簡略的に「斎宮I-1期」と、遺構一覧・遺物観察表などでは「斎宮I-1」などとしている。その他の時期の土器については以下の文献を基準とした。  
中世陶磁器類：中世土器研究会1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社  
中世土器類：伊藤裕偉1996『伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る』『鍋と甕のデザイン』東海考古学フォーラム
- 7 遺構記号は、文化庁文化財部記念物課2010『発掘調査のびき一集落遺跡発掘編一』に準拠し、遺構の種類から以下のように表記している。  
SA：壠 SB：掘立柱建物 SD：溝 SE：井戸 SI：竪穴建物 SK：土坑 SZ：周溝墓・古墳  
SP：柱穴・ビット（SA・SB・SIに伴う柱穴はP+番号と表記） SX：その他・不明遺構
- 8 図面・写真等の調査資料および出土遺物は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 9 本書の執筆は、山中由紀子（斎宮歴史博物館）が前言・調査報告を、味噌井拓志（明和町斎宮跡・文化観光課）が付編の執筆を行い、編集は山中・味噌井が担当した。

## 目 次

I	前言	（山中）	1	7	第198-7次調査	（山中）	15
II	調査報告			8	第198-8次調査	（山中）	17
1	第198-1次調査	（山中）	3	9	第198-9次調査	（山中）	19
2	第198-2次調査	（山中）	4	10	第198-10次調査	（山中）	21
3	第198-3次調査	（山中）	5	11	第198-11次調査	（山中）	22
4	第198-4次調査	（山中）	6	12	第198-12次調査	（山中）	23
5	第198-5次調査	（山中）	9	13	第198-13次調査	（山中）	28
6	第198-6次調査	（山中）	13	付編	史跡現状変更等許可申請	（味噌井）	35

## 表・挿図目次

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移	1	第5表 第198次調査 出土遺物一覧表(3)	33
第2表 第198次調査 遺構一覧表	30	第6表 第198次調査 出土遺物一覧表(4)	34
第3表 第198次調査 出土遺物一覧表(1)	31	第7表 令和2年度現状変更等許可申請一覧	36
第4表 第198次調査 出土遺物一覧表(2)	32		
 第1図 発掘調査位置図	2	第21図 第198-8次調査区位置図	17
第2図 第198-1次調査区位置図	3	第22図 第198-8次調査 遺構平面図・土層図・遺物実測図	18
第3図 第198-1次調査 遺構平面図・土層図・遺物実測図	3	第23図 第198-9次調査区位置図	19
第4図 第198-2次調査区位置図	4	第24図 第198-9次調査 遺構平面図	19
第5図 第198-2次調査 遺構平面図・土層図・遺物実測図	4	第25図 第198-9次調査 土層図	20
第6図 第198-3次調査区位置図	5	第26図 第198-9次調査・第76-1次調査A地区 遺物実測図	21
第7図 第198-3次調査 遺構平面図・土層図・遺物実測図	5	第27図 第198-10次調査区位置図	21
第8図 第198-4次調査区位置図	6	第28図 第198-10次調査 遺構平面図・土層図	22
第9図 第198-4次調査 遺構平面図	7	第29図 第198-11次調査区位置図	22
第10図 第198-4次調査 土層図・SK1140出土状況図・遺物実測図	8	第30図 第198-11次調査 遺構平面図・土層図	22
第11図 第198-5次調査区位置図	9	第31図 第198-12次調査区位置図	23
第12図 第198-5次調査 遺構平面図	10	第32図 第198-12次調査 土層図(1)	23
第13図 第198-5次調査 土層図(1)	11	第33図 第198-12次調査 遺構平面図	24
第14図 第198-5次調査 土層図(2)・遺物実測図	12	第34図 第198-12次調査 土層図(2)	25
第15図 第198-6次調査区位置図	13	第35図 第198-12次調査 遺物実測図(1)	26
第16図 第198-6次調査 遺構平面図・SK1140出土状況図・土層図	13	第36図 第198-12次調査 SK1141出土状況・遺物実測図(2)	27
第17図 第198-6次調査 遺物実測図	14	第37図 第198-13次調査区位置図	28
第18図 第198-7次調査区位置図	15	第38図 第198-13次調査 遺物実測図	28
第19図 第198-7次調査 遺構平面図・土層図	16	第39図 第198-13次調査 遺構平面図・土層図	29
第20図 第198-7次調査 遺物実測図	17		

## 写真図版

写真図版1 第198-1次 調査区 全景(東から)	
写真図版2 第198-2次 西調査区全景(東から)	
写真図版3 第198-3次 調査区全景(東から)	
写真図版4 第198-4次 調査区全景(南東から)	
写真図版5 第198-5次 1トレンチ 全景(南から)	
写真図版6 第198-6次 調査区全景(北西から)	
写真図版7 第198-7次 調査区 全景(南東から)	
写真図版8 第198-8次 調査区 全景(南西から)	

写真図版9 第198-9次 調査区全景(南東から)	
写真図版10 第198-10次 3トレンチ南壁土層(北東から)	
写真図版11 第198-11次 調査区全景(北から)	
写真図版12 第198-12次 調査区全景(南西から)	
写真図版13 第198-12次 拡張部全景(北西から)	
写真図版14 第198-12次 SK1141出土状況(南西から)	
写真図版15 第198-13次 5トレンチ全景(北から)	

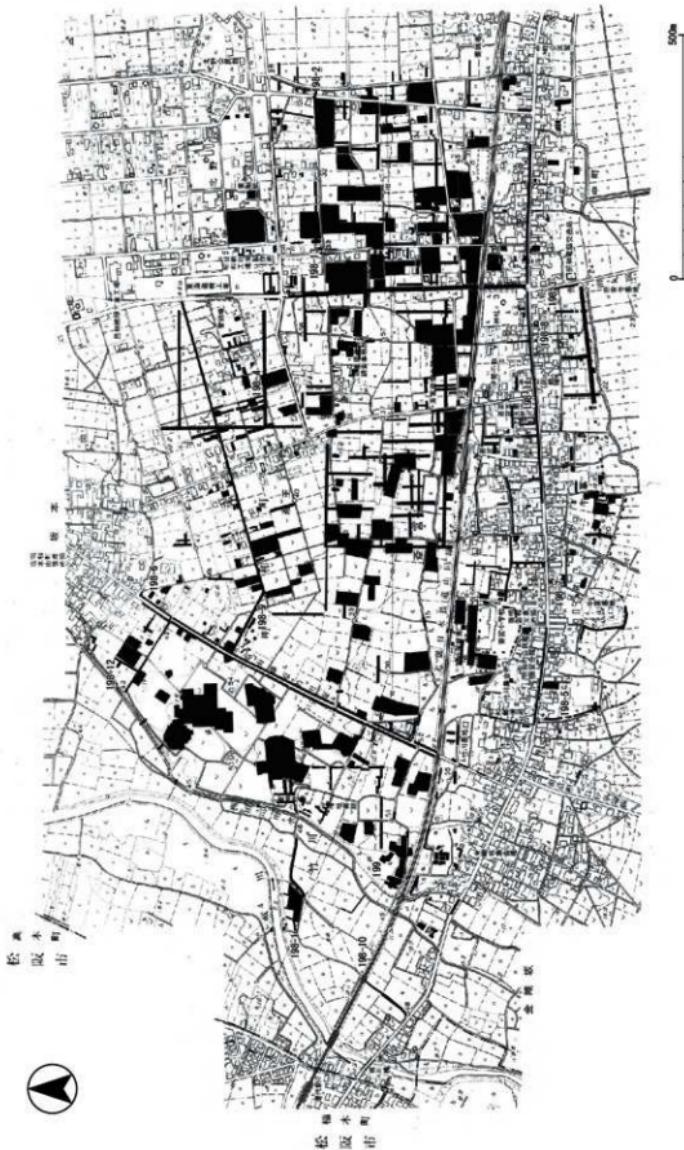
## I 前 言

令和2年度には65件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40～50件程度で推移しているが、令和2年度は例年に比べて件数が増加した。現状変更の内訳をみると、個人住宅の新築や改築、これに伴う盛土、排水路や公園の整備など、史跡内住民の生活維持のための現状変更に加え、明和町による史跡の環境整備（排水路整備・成田公園整備）などの歴史的風致維持向上計画（以下、「歴まち整備事業」）に伴う現状変更があり、事前の発掘調査や工事立会いで対応した。このうち、発掘調査が必要となった案件は13件で、調査面積の合計は約717.7m<sup>2</sup>である。

第198-3・4・6～8・11・12次調査は個人住宅・事務所の新築、あるいはそれに伴う盛土で、建物の基礎工事や浄化槽の埋設などに先立って実施した。一方、「歴まち整備事業」として、第198-1・10次調査は史跡西部の水田地帯での畠戸広場整備及び散策路整備に関連して行った。第198-2・13次調査は史跡東部における排水路整備に関連するもので、改修に伴って排水溝埋設部の調査を行った。第198-5次調査は史跡南西部、南裏広場整備に伴う事前の発掘調査、第198-9次調査は史跡北西部、斎宮歴史博物館東の塙山広場整備に伴う事前の発掘調査である。これらの調査はいずれも、遺構密度や遺構面の高さの確認など史跡保護にかかるデータの蓄積はもとより、斎宮跡の実態解明にとって重要な成果を得た。

年 度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積 (m <sup>2</sup> )	うち補助金調査件数	同調査面積 (m <sup>2</sup> )
昭和 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	43	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	13	2,171	8	335
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
21	56	5	790	3	45
22	65	13	448.2	13	448.2
23	43	13	1,070.7	10	993.8
24	35	8	1,899.2	6	91
25	44	17	640.7	12	370
26	41	16	868	9	555.8
27	53	15	352.5	11	198
28	55	17	751.9	8	532.9
29	38	12	664.8	6	214.9
30	42	12	766.1	8	248.4
令和 元	27	7	2,007.3	5	349.3
2	65	13	717.7	6	418.7
計	1,873	488	72,933.1	298	27,481.1

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移



第1図 発掘調査地位置図 (1:10,000)

## II 調査報告

### 1 第198-1次調査 (6AA8)

調査場所 多気郡明和町大字竹川地内

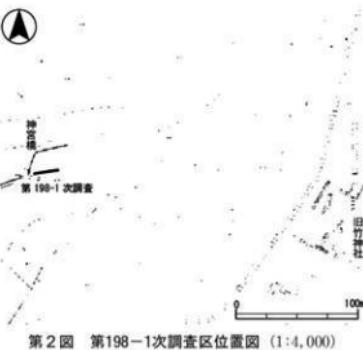
原因 「歴まち整備事業」公園整備にかかる事前発掘調査

調査期間 令和2年4月23日～令和2年5月11日

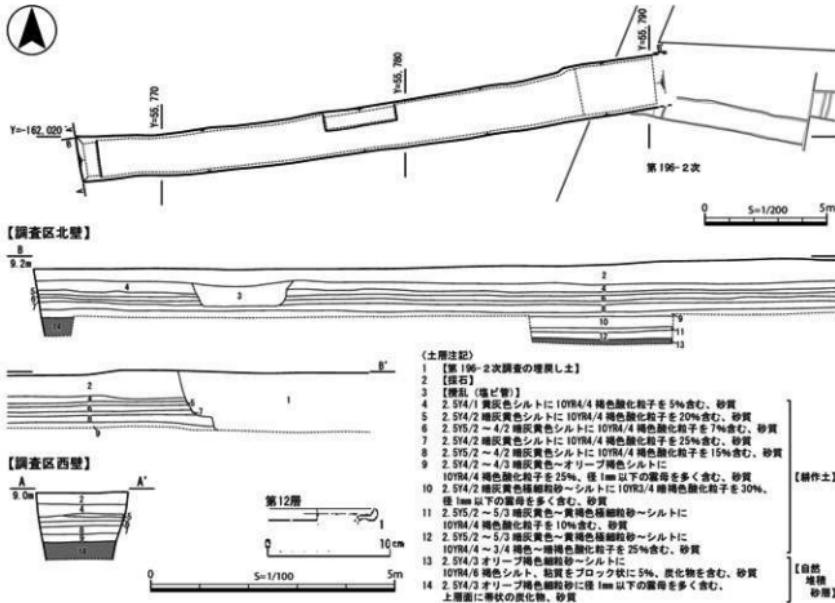
調査面積 37.5m<sup>2</sup>

調査概要 調査地は、史跡西部の沖積低地に位置し、「歴まち整備事業」にかかる公園整備に伴う発掘調査の2カ年度目にあたる。令和元年度第196-2次調査地の西側に調査区を約4mを重複させて、幅約1.5～1.8m・延長約25mのトレーニング状の調査区を設定した。旧耕作面上から約0.7m掘り下げたが、安定した面が確認できなかったため調査区西端と中央付近で一部1.1～1.2m掘り下げ、土層確認を行った。

土層観察から、調査区のほぼ全面で近現代に由来する水田耕作面が4面（西端では3面）、深掘り部分で耕作面下層から後背湿地の植生に由来する炭化物粒が多く含む砂層を確認し、調査区の大半が後背湿地に当たると考えられる。耕作面には平安時代後期～16世紀代の土師器片が含まれるが、下層の砂層においても近世と考えられる陶器片や土師器片が見られ、後背湿地の形成は近世以降であると言える。また、耕作面の最下面からは、第196-2次調査で確認した整地土層は確認できなかった。出土遺物には古代に遡る土師器片や平安時代後期頃まで遡る時期の土師器小皿、15～16世紀頃の土師器小皿片や鍋口縁部片（1）、近世陶器片などが出土したが、いずれも細片である。



第2図 第198-1次調査区位置図 (1:4,000)



第3図 第198-1次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)・遺物実測図 (1:4)

## 2 第198-2次調査 (6AV8)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字東前沖地内（道路・水路）

原 因 「歴まち整備事業」にかかる排水路改修

調査期間 令和2年5月22日～27日

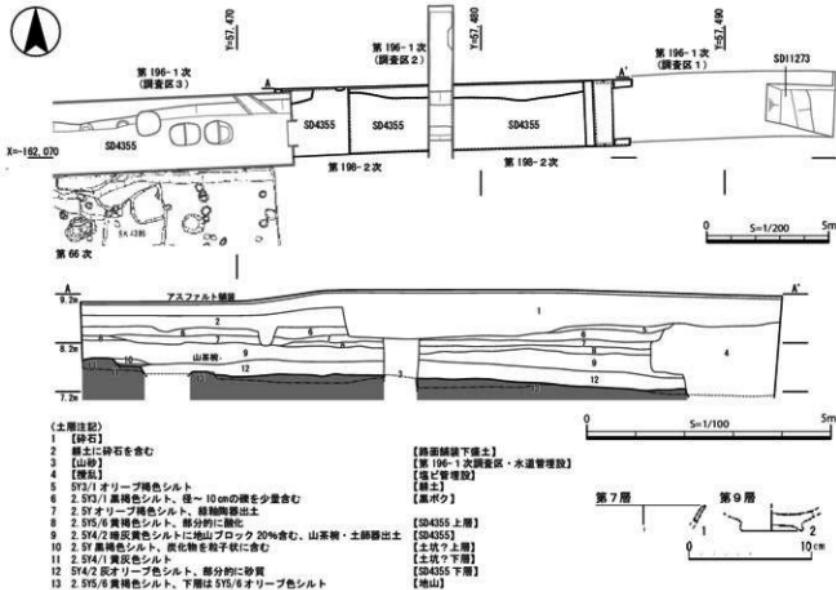
調査面積 35m<sup>2</sup>

調査概要 史跡北東部、方格街区の北辺道路南側溝に相当する地点で、幹線排水工事に伴い実施した発掘調査である。当該地では令和元年度に第196-1次調査を実施し、方格街区北辺道路の南側溝SD4355を確認している。今回は第196-1次調査の調査区1と調査区2の間、調査区2と調査区3の間に幅約2.7m、合計約13mの調査区を設定し、調査区の大半が交通量のある町道を横断することから3回に分けて調査した。掘削は地山となる黄褐色土上まで重機により行い、遺構は平面検出に止めた。

調査では、現況地表面、道路舗装上面から約0.8～1.0mの深さで東西方向の溝の北肩部を確認した。南側肩は調査区外に遺存するものと思われる。調査区北側土層断面によると、現地表面から調査区西側で1.1m（標高7.8m）、東側で2.0m下（標高7.2m）で地山面を確認した。第196-1次調査区2・3の成果から、溝底部の標高は当調査区西端で約7.4mである。調査区北壁土層断面の観察によると地山面が西から東へと傾斜することから、溝は西から東へと傾斜するもしくは溝の中心軸が東へ行くにつれ北側へずれる可能性がある。第196-1次調査区1において方格街区東側溝と想定される南北方向の溝SD11273が確認されているが、確認範囲でその最深部は標高約6.7mであり、SD4355からの排水を受けたものと理解できる。SD4355の埋土上層である第9層から陶器小皿（2）が出土することから、下層



第4図 第198-2次調査区位置図 (1:2,000)



第5図 第198-2次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)・遺物実測図 (1:4)

である第12層は古代までさかのほると考えられる。出土遺物にはその他に第7層から縁軸陶器壺（1）がある。

### 3 第198-3次調査 (6AR3)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉572-3, 574-2

原 因 住宅建築

調査期間 令和2年5月29日～6月2日

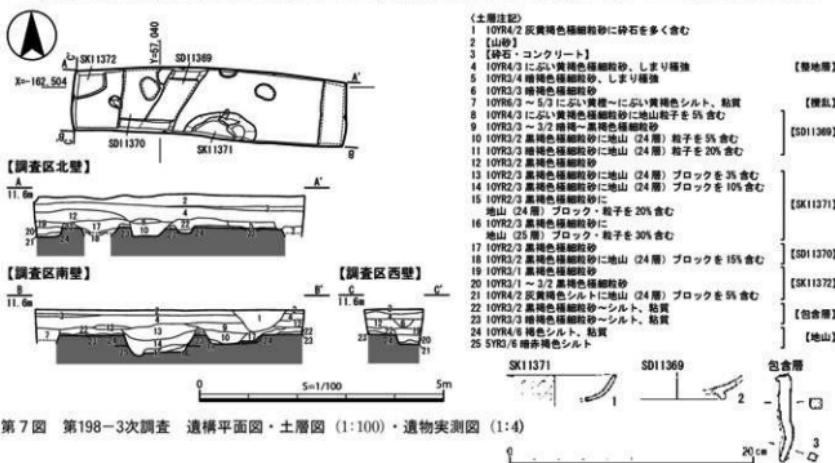
調査面積 7m<sup>2</sup>

調査概要 調査地は史跡南部、竹神社南に位置する宅地である。住宅建築に伴い実施した発掘調査で、耕作中の畠地や進入路等の制限から東西5.8m、南北1.1～1.3mと長方形の調査区を設定した。調査区南部で地表面から深さ0.5m、北部で深さ0.6mで地山面に至り、この地山面上で遺構検出を行った。遺構は平安時代～鎌倉時代の溝2条や土坑2基、ピットなどを確認した。

SD11369は幅0.55m・検出面からの深さ0.15mの断面箱形を呈し、N30°Eの方向に延びる溝である。調査区内で確認した長さは1.3mである。埋土はにぶい黄褐色～黒褐色を呈し、埋土からはK14-2窓式、9世紀前半代の灰軸陶器壺（2）が出土するが、ロクロ土師器の破片も出土することから10世紀後半代まで機能していた遺構と考えられる。SD11369に重複するSD11370は幅0.8m・深さ0.1m、調査区北壁で確認する断面形状は船底状となる。重複関係からSD11369より古く、埋土は黒色を呈すことから平安時代前期以前の可能性が高い。出土遺物は古墳時代～平安時代の土師器細片2片のみである。SK11371は調査区外に広がる土坑で、確認できる範囲の規模は東西1.45m・南北0.5m以上・深さ0.35mで、断面は逆台形状を呈する。出土遺物には土師器小皿・皿（1）・鍋、陶器壺などがあり、平安時代末～鎌倉時代頃の所産と考えられる。調査区北西角で確認したSK11372は東西0.55m以上・南北0.5m以上、検出面からの深さ0.2mの方形を呈する土坑で、検出面から約0.1mで硬面化を確認したことから堅穴建物の可能性もある。出土遺物はロクロ土師器台付皿あるいは杯の高台部や古代末～中世の範疇に収まると考えられる土師器小皿片であり、古くとも10世紀後半以降の遺構と考えられる。以上のように、およそ平安時代後期～室町時代の遺構を確認したが、周辺の調査歴を見ると、当調査区の北東15mに位置する平成22年度第170-12次調査では、断面箱形状を呈する南北方向の溝2条を確認した。また、当調査区の南西10mの地点で実施した第9-



第6図 第198-3次調査区位置図 (1:2,000)



第7図 第198-3次調査 遺構平面図・土層図 (1:100)・遺物実測図 (1:4)

9次調査では当調査区に近い北調査区において南北方向の溝を確認しており、これはSD11370の延長部分の可能性がある。これらの溝は断面箱形を呈する等、方格街区の区画溝の形状に類似することから、平安時代後期以降に区画内を細分化する溝とも考えられる。出土遺物には他に青磁碗、鉄製品釘（3）、近世の土師器鍋や陶器鉢、瓦質土器がある。

#### 4 第198-4次調査（6AP7）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字楽殿2889-2

原 因 住宅新築

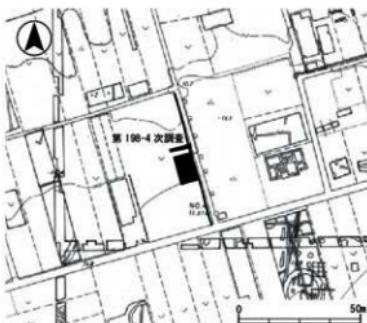
調査期間 令和2年8月17日～9月16日

調査面積 115m<sup>2</sup>

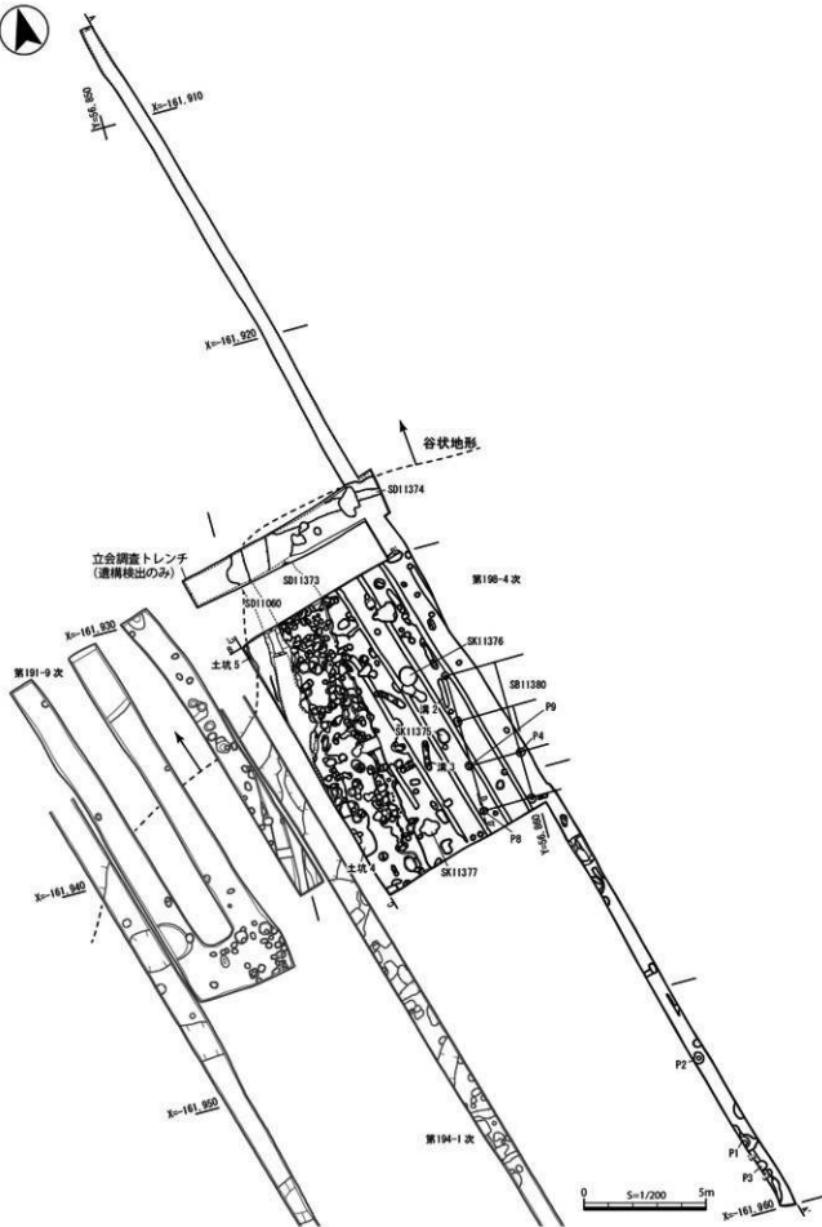
調査概要 調査地は史跡北部に位置する畠地で、「斎王の森」から北東へ150mの地点にある。住宅建築に伴う発掘調査であり、地下造構の状況を把握するための調査を行った。調査区の設定は、住宅建設地点を外した位置に、東西約7.5m・南北約11.5mの矩形の調査区とし、東端部を北側に幅0.5～0.6m、長さ約25m、南側に幅約0.5m、長さ約19.5mと拡張した。また、事前調査後、中央調査区から北に約2m地点においてプロック層設置に伴う立会を行った際、深さ約0.45m地点で造構面を検出したため急遽東西約9m、南北約1.5mの範囲で造構検出までの調査を行った。周辺の既往調査として、当調査区西側において平成29年度第191-9次調査、平成30年度第194-1次調査がある。

基本層序は南半部ではおおよそ表土直下で地山面となり、地表面から深さ0.2～0.4mである。北半部では途中から埋積浅谷に由来する落ち込みがみられ、表土の下からにぶい黄褐色極細粒砂～シルト層（包含層）、黒褐色極細粒砂～シルト層を確認したが、深さ0.6mでも地山面を確認することができなかった。北端付近では、表土下に灰黄褐色細粒砂～極細粒砂、黒褐色細粒砂～極細粒砂を確認したが各層の下層部は硬化が見られ、埋積浅谷を整地した跡跡の可能性がある。調査では地山面を造構検出面として調査を実施したが、こうしたことから北側では造構は確認できていない。

中央の調査区では、概ね真北を志向する造構群を確認した。調査区西半部では、第196-1次調査で確認したSD11060、その1.5m東側にSD11373が並走する。両溝間には多数のピット・落ち込みが見られ、SD11373の西肩は不明瞭である。SD11060は幅0.8m・調査区内での延長約5.5m、検出面からの深さ0.4m、断面形状は台形を呈する。出土遺物には斎宮III-3期の土師器甕や陶器碗（6）のほか、土師器皿（5）・鍋片、陶器皿、須恵器壺片（7）などが出土し、平安時代末～鎌倉時代には埋没したと考えられる。SD11373は幅0.9m・調査区内での延長約12m、検出面からの深さ0.2m、箱形の断面形状を呈する。出土遺物に土師器皿・甕（1）や土鉢（2）、陶器碗（3・4）や須恵器壺片などがあり、古くとも斎宮III-3期、平安時代末期には埋没したと考えられる。SD11060とSD11373は並走するが、南へ行くにつれてSD11060は西へやや聞く。その他、立会調査トレーナーにおいて確認したSD11374はE 5° Nを志向する東西方向の溝で、幅約0.5m、調査区内での延長約5mである。SD11373埋没後に掘削されることから、平安時代末期より下がる時期の溝と考えられるが、検出に止めていることから詳細な時期不明である。調査区東部に南北3間×東西2間以上、主軸方向が真北のSB11380があり、柱穴は6カ所確認した。柱掘方は直径0.35m程の円形である。南西隅のP8を半蔵したところ、検出面から深さ約0.17m、柱直径8cm程度とわかった。P4・P9の柱痕跡出土遺物から、斎宮III-1・2期以前に埋没したと言える。南延長部においても柱痕跡を持つピットを確認しているが、調査区が狭小のため建物については不明である。P3は直径0.4m・深さ0.2m以上の小穴で、検出面から約0.1mの地点で土師器杯碗A（13）が出土した。これは斎宮I・2期の所産であるが、その他埋土からは12世紀代と思われる土師器甕口縁部片（12）も出土しており、土師器杯Aは埋没時の混入と思われる。その他、中央調査区において土坑4基を確認しているが、いずれも出土遺物は少量で、時期の判断できる遺物で斎宮II-4～III-1期のものとなり、おおよそ他の溝や建物の年代と同時期と考えられる。

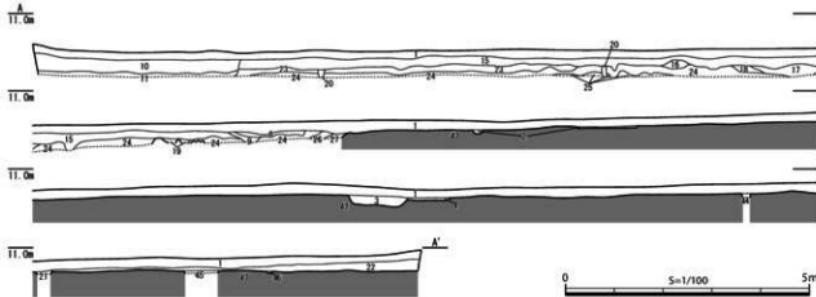


第8図 第198-4次調査区位置図(1:2,000)



第9図 第198-4次調査 遺構平面図 (1:200)

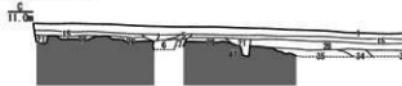
【調査区東壁】



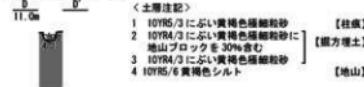
【拡張部北壁】



【拡張部西壁】



【SB11380 柱穴 P 8】



〔土層注記〕

- 1 10YR5/3 にいし黄褐色種細粒砂
- 2 10YR5/2 灰黄褐色種細粒砂～種細粒砂
- 3 10YR4/2 灰黄褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック40%含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック80%含む
- 5 2層に51mm/6 棕色シルト20%含む
- 6 10YR5/2 黄褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック10%含む
- 7 10YR5/2 黄褐色種細粒砂～シルト しまり様で弱い
- 8 5YR6/6 棕色シルト
- 9 10YR4/4 棕色シルトに8層ブロック10%含む
- 10 10YR2/2 灰黄褐色種細粒砂～種細粒砂に
- 11 10YR2/1 黑褐色シルトブロック10%含む 下層面硬化
- 12 10YR2/3 混合色種細粒砂～シルトに地山ブロック2%含む
- 13 10YR2/3 混合色種細粒砂～シルトに地山ブロック2%含む
- 14 10YR4/3 にいし黄褐色種細粒砂～シルト
- 15 10YR4/3 にいし黄褐色種細粒砂～シルト
- 16 15 層 10YR4/4 棕色シルトブロック10%含む
- 17 10YR4/4 棕色シルト
- 18 17 層 10YR4/4 棕色シルトブロック10%含む
- 19 10YR5/4 にいし黄褐色シルトに
- 20 10YR5/3 にいし黄褐色種細粒砂
- 21 10YR5/3 にいし黄褐色種細粒砂～種細粒砂
- 22 10YR4/2 灰黄褐色種細粒砂～シルト

〔柱穴〕

1 10YR5/3 にいし黄褐色種細粒砂

2 10YR4/3 にいし黄褐色種細粒砂に 地山ブロックを30%含む

3 10YR4/3 にいし黄褐色種細粒砂

4 10YR5/2 黄褐色シルト

〔柱穴〕

1 10YR5/3 にいし黄褐色種細粒砂

2 10YR4/3 にいし黄褐色種細粒砂に 地山ブロックを30%含む

3 10YR4/3 にいし黄褐色種細粒砂

4 10YR5/2 黄褐色シルト

〔地山〕

1 10YR5/3 にいし黄褐色種細粒砂

2 10YR4/3 にいし黄褐色種細粒砂

3 10YR4/3 にいし黄褐色種細粒砂

4 10YR5/2 黄褐色シルト

5 10YR5/2 黄褐色シルト

6 10YR5/2 黄褐色シルト

7 10YR5/2 黄褐色シルト

8 10YR5/2 黄褐色シルト

9 10YR5/2 黄褐色シルト

10 10YR5/2 黄褐色シルト

11 10YR5/2 黄褐色シルト

12 10YR5/2 黄褐色シルト

13 10YR5/2 黄褐色シルト

14 10YR5/2 黄褐色シルト

15 10YR5/2 黄褐色シルト

16 10YR5/2 黄褐色シルト

17 10YR5/2 黄褐色シルト

18 10YR5/2 黄褐色シルト

19 10YR5/2 黄褐色シルト

20 10YR5/2 黄褐色シルト

21 10YR5/2 黄褐色シルト

22 10YR5/2 黄褐色シルト

23 10YR2/2 黄褐色種細粒砂～シルト

24 10YR2/1 黑褐色種細粒砂～シルト

25 10YR1/1 黑褐色種細粒砂

26 10YR2/2 黄褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック5%含む

27 10YR1/1 黑褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック10%含む

28 10YR2/2 黑褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック10%含む

29 10YR2/2 黑褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック5%含む

30 10YR2/2 黑褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック5%含む

31 10YR2/2 黑褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック20%含む

32 地山土に 10YR2/2 黑褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック30%含む

33 10YR2/2 黑褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック10%含む

34 10YR2/3 黑褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック5%含む

35 10YR2/3 黑褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック5%含む

36 10YR2/3 黑褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック10%含む

37 10YR2/3 黑褐色種細粒砂～シルトに地山ブロック10%含む

38 10YR2/3 黑褐色種細粒砂～シルト

39 10YR2/2 黑褐色シルトに地山ブロック5%含む

40 10YR2/2 黑褐色シルトに灰白色物が多く含む

41 10YR2/2 黑褐色シルトに地山ブロック10%含む

42 10YR2/2 黑褐色シルト

43 10YR2/2 黑褐色シルト

44 10YR2/2 黑褐色種細粒砂～シルト

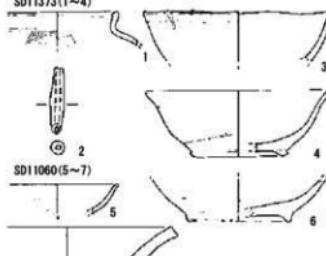
45 10YR2/1 黑褐色種細粒砂～シルト

46 10YR2/3 黑褐色種細粒砂～シルト

47 10YR5/6 黄褐色シルト

〔地山〕

SD11373(1-4)



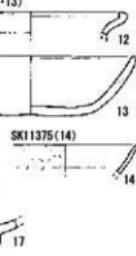
SB11380(5-9)



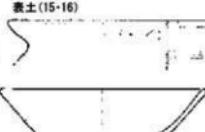
pit2(10-11)



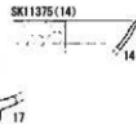
pit3(12-13)



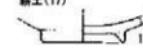
表土(15-16)



SK11375(14)



耕土(17)



第10図 第198-4次調査 土層図 (1:100)・P3土器出土状況図 (1:20)・遺物実測図 (1:4)

遺物は、SD11060からは斎宮III-2期の土師器杯D（5）・渥美産4型式の陶器碗（6）、須恵器壺口縁部片（7）があり、やはり12世紀後半に収まる。土師器杯D（8）はSB11380のP4柱痕跡出土で斎宮III-1期と考えられ、建物の廃絶時期を判断する資料となる。土師器壺（9）は同じくP4柱穴出土であり、平安時代後期に収まると考えられる。土坑群出土遺物のうち図化できたのはSK11375出土の土師器碗C（14）で、これも斎宮III-1期である。その他、縁釉陶器碗（17）は調査区土層精査中にSK11378が接する部分で包含層である第15層から出土したものである。胎土が粗く産地は判然としないが、10世紀以降の所産と考えられる。

## 5 第198-5次調査（6AI13・I14・J14）

**調査場所** 多気郡明和町大字斎宮字南裏245-1、245-4、245-5、245-6、246-1、247、247-3、247-5

**原因** 「歴まち整備事業」にかかる道路拡幅等の史跡環境整備

**調査期間** 令和2年9月7日～10月7日

**調査面積** 110.5m<sup>2</sup>

**調査概要** 調査地は史跡南部、斎宮小学校の南西約200mに位置し、史跡と南接する露越遺跡に跨る町道に沿う。調査区南東には昭和63年度第76-9次調査地がある。町道拡幅部分を対象に発掘調査を実施した。調査区は町道東側に幅0.4～2.0m、延長3.5～36mの南北方向のトレンチ5本、東西方向のトレンチ

1本を設定し、北から順にトレンチ番号を付与した。このうち、4～6トレンチは露越遺跡に含まれる。1～3トレンチでは大半が近世の掘り込みにより遺物包含層や、明確な地山面が確認できず、1トレンチの北から約9m付近で一部深掘りした。調査時の地表面から約1mで地山面を、北から約19m地点、深さ0.5mで遺物包含層上面に達するが、その上部は近世の擾乱が及んでいる。2トレンチも大半に近世の擾乱が及び、トレンチ南端で現地表面から深さ1.1mの地点で地山面を確認したが、こちらについても本来の地山面や遺物包含層上面は更に浅かったものと考えられる。3トレンチは南部に近世の擾乱が及ぶが、北部は比較的の地山面の残存状況が良く、現地表面から0.6～0.8mで地山面に達する。5トレンチは北部に近世の落ち込みがあり、地表面から0.8m掘削するも遺構面もしくは遺物包含層は確認できない。中央付近、第76-9次調査に接する部分から南は近世の擾乱が及ぶものの深さ0.2mで遺物包含層上面に達し、0.4mの深さで地山面が確認できる。6トレンチは、深さ0.4mで遺物包含層上面に達し、0.5mで地山面を確認した。南端の4トレンチは、深さ0.5mで遺物包含層に達する。全トレンチに渡って近世の擾乱が及んでいるが、溝4条、土坑3基等を確認した。遺構は、遺物包含層上面から掘削されているが、誤認を避けるため地山面で検出を行っている。

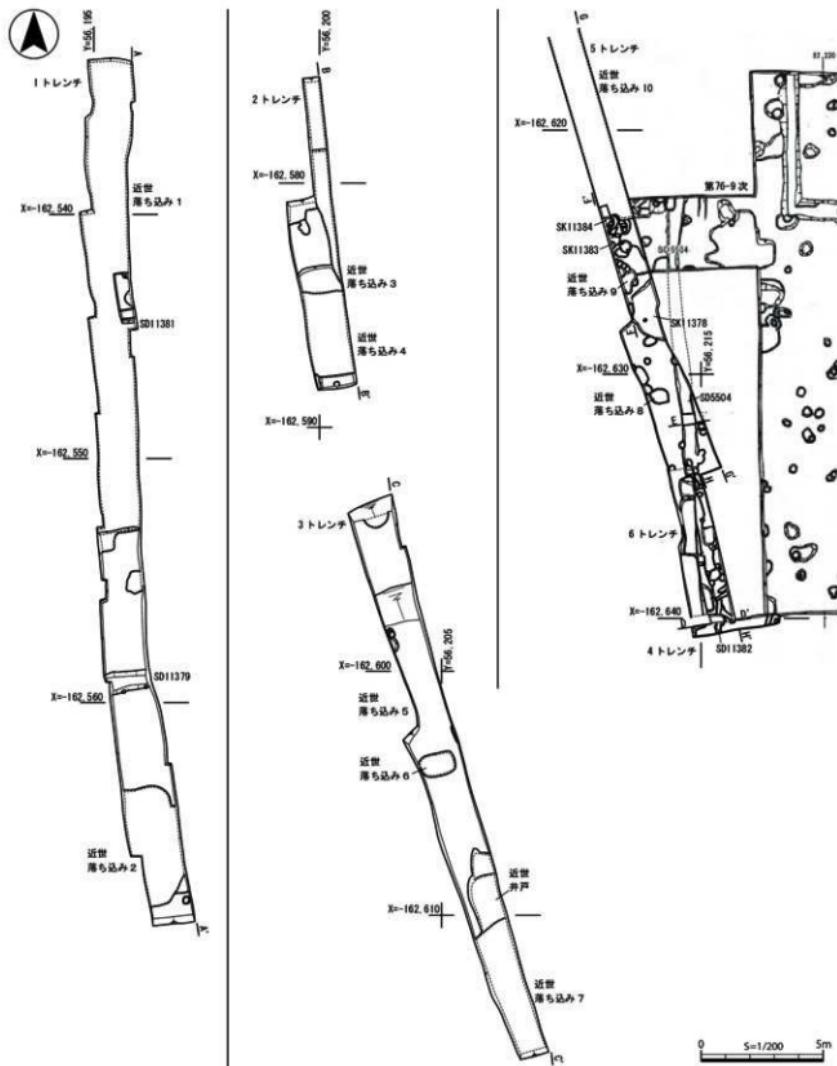
SK11378は5トレンチ中央付近で確認した、南北2.6m、東西1.2m以上、深さ約0.2mの不規則形を呈する土坑である。断面形は浅い皿状である。5トレンチの東壁際で確認し、大半は調査区外へ広がる。埋土内からは斎宮第II-1～2期の土師器杯Aが大量に出土したが、遺構底面ではなく、5トレンチ22層から出土している。SK11383・11384は5トレンチ中央、SK11378の北部で確認した。5トレンチ西壁際にかかり、その上近世の擾乱が及んでいるため全体形状は不明であるが、西壁土層によるとSK11383は残存する南北方向は約0.4m・深さ0.15m、SK11384は残存する南北方向は1.1m・深さ0.3mを測る。西壁土層観察により、SK11384よりもSK11383が古いことがわかる。出土遺物は古代の所産と考えられる土師器碗杯類や壺の破片があるのみである。

SD5504は5・6トレンチで確認した南北方向の溝で、第76-9次で確認した溝の延長と考えられる。第76-9次調査と合わせた延長は約17m、遺物包含層からの深さは約0.25mの断面箱形を呈する。出土遺物は平安時代前期の範疇に収まるが、第76-9次調査では細片ながら13世紀代の所産と考えられる土師器鍋が出土している。SD11379・SD11381は東西方向の溝で、SD11379は幅0.8m・遺物包含層上面からの深さ約1.1m、断面船底状を呈する溝である。出土遺物



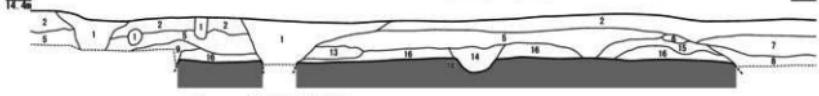
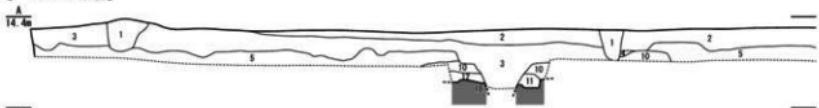
第11図 第198-5次調査区位置図(1:2,000)

には土師器杯・皿・鍋細片があり、平安時代から鎌倉時代の所産と考えられる。SD11381は擾乱が重複しているが、残存幅0.4m、残存する深さ0.3m、断面形状が箱型を呈する。出土遺物には土師器鍋や常滑産と考えられる陶器壺細片があり、近世擾乱の混入も考えられるが室町時代～近世の溝と考えておきたい。SD11382は4・6トレンチで確認した南北方向の溝であり、前述のSD5504に重複する。幅約0.2m・延長1.5m、残存する深さ0.2mを測る断面形が船底状を呈する小溝である。土師器壺細部細片が出土し、少なくとも古代以降の埋没であろうか。

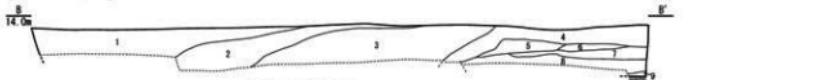


第12図 第198-5次調査 遺構平面図 (1:200)

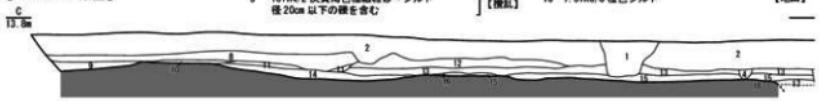
【1】トレチ東壁



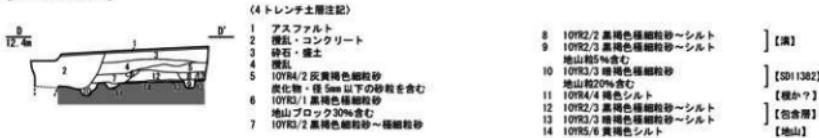
【2】トレチ東壁



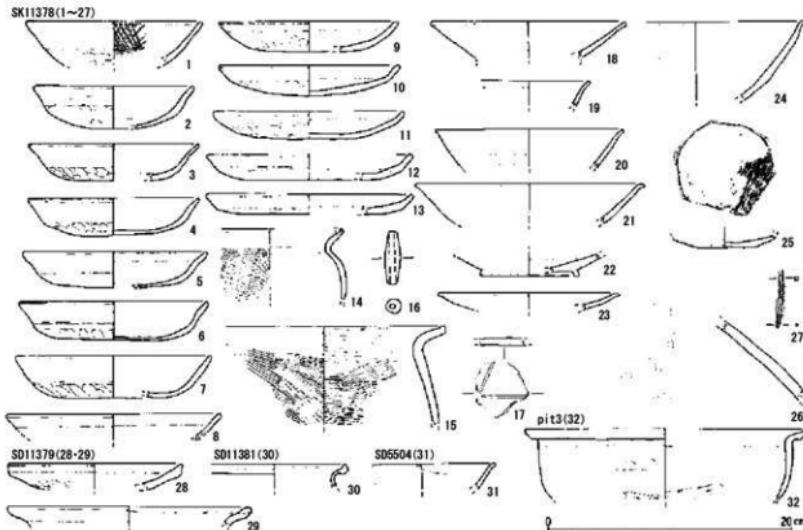
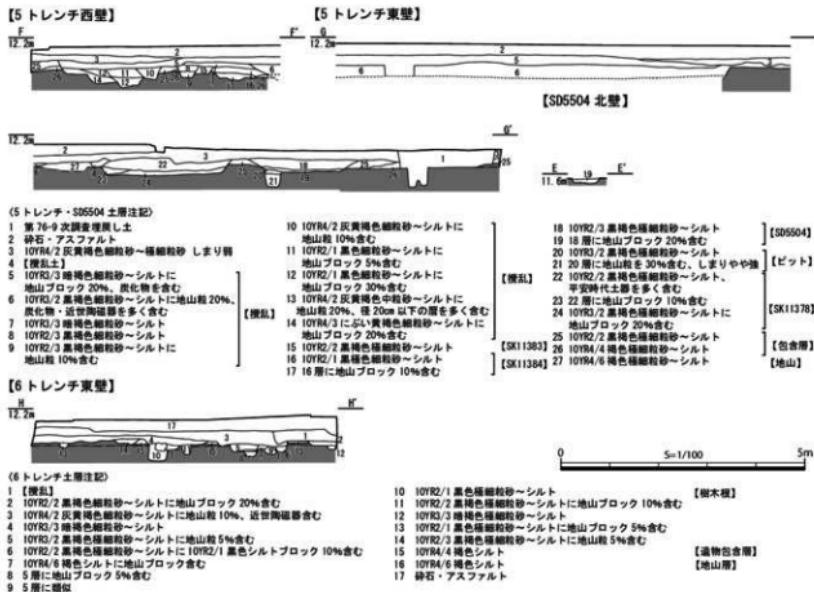
【3】トレチ東壁



【4】トレチ北壁



第13図 第198-5次調査 土層図(1) (1:100)



第14図 第198-5次調査 土層図(2) (1:100)・遺物実測図 (1:4)

SK11380からは須恵器転用鏡（25・26）も出土し、特に（26）は朱墨鏡である。露越遺跡の範囲であり方格街区外に位置するが遼宮に関わるものと見てよく、遼宮に関わる活動が中跡南端にも及んでいたと言える。

### 6 第198—6次調查 (6AL5)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字古里3259-3

原 因 住宅建築

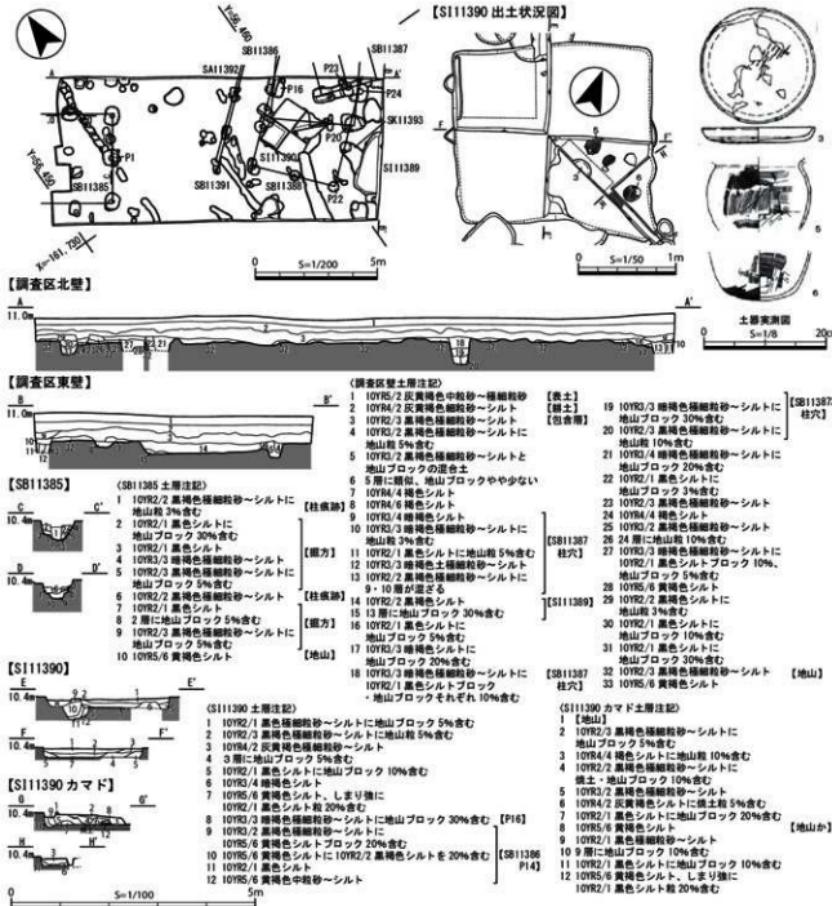
調査期間 令和2年10月6日～19日

調查面積 76.5m<sup>2</sup>

**調査概要** 調査地は史跡北西部の史跡境界近くに位置し、斎宮歴史博物館から北東約80m地点の畠地である。住宅建築に伴う発掘調査で、東西約12.5m、南北約6mの矩形の調査区を設定し、西側一部を拡張した。調査地は地表面から深さ0.2mで遺物包含層に達し、更に0.2mの深さで地山面に至る。検出遺構は竪穴建物2棟、掘立柱建物4棟、柱列2条、土坑、溝で、その他、建物としてまとまらない小穴を複数確認した。



第15図 第198-6次調査区位置図 (1:2,000)

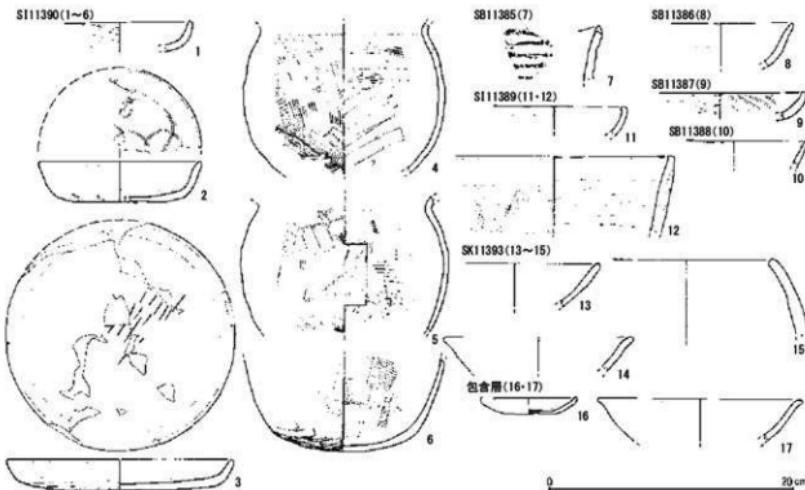


第16図 第198-6次調査 遺構平面図(1:200)・S111390出土状況図(1:50)・土層図(1:100)

SI11390は東西2.0m・南北1.8mのやや長方形の平面形を持つ。北東部・南西部は未掘したが、南東コーナーにカマドがあり、その外側延長に煙り出しと考えられるピットがある。カマド本体の構築土は土層観察等では確認できず、C・D3層に灰層や焼土粒子が混入する程度のため、構造体は残存していない可能性が高い。カマド燃焼部は床面が被熱により硬化しているC・D12層周辺と考えられる。土師器皿A(3)は地山シルトブロックに覆われてカマド埋土下層から出土しているが、地山シルトブロックはカマド崩落土で、土師器皿はカマド崩落時に混入したと考えられることから、土器の年代すなわち斎宮1-2期がカマド廃絶時期と考えられる。主柱穴は確認できず、北西部では西壁に沿って幅約0.1mの壁周溝が延長約0.65m確認できた。また、北西部では貼床及び硬化面を確認した。

SI11389は調査区東端で検出し、大半が調査区外へと広がる。確認できる規模は、南北2.5m・東西1.0m以上の隅丸方形の平面形を呈すると考えられ、地山面からの深さは0.2mである。断面形状は壁面がほぼ垂直である。調査範囲では壁周溝や主柱穴等は確認できなかったが、平面及び断面形状から竪穴建物とした。出土遺物は土師器皿A(11)・瓶(12)があり、SI11390と同様、斎宮1-2併行期、8世紀前半、奈良時代と考えられる。

SB11385は調査区西側で確認した、桁行2間以上×梁行2間の東西棟建物である。建物の大半が調査区外へと延びる。建物方位はおよそN32°Eである。柱間寸法はいずれも約1.8m(6尺)で柱掘方は一辺0.6~0.8mの隅丸方形である。梁行妻柱であるP1の掘方から圓化はしていないが斎宮1-2~3期と考えられる土師器皿底部片が出土していることから、SB11385の掘削時期は遅くとも1-3期と言える。SB11386は調査区東側で確認した桁行2間以上×梁行1~2間の南北棟の建物である。建物の大半が調査区外へとびる。建物方向はおよそN38°Eである。柱間は桁行1.5m、梁行は1間の場合3.6mである。SI11390・SB11387・11388と重複関係にあり、SB11386は最も古い建物である。妻柱部分はSI11390と重複しており、妻柱の想定箇所がSI11390カマドに当たることからカマドの東西方向土層観察窓に沿って土層観察したが、竪穴建物の貼床下では柱穴等は確認できなかった。出土遺物はP16から斎宮1-2~3期に併行すると思われる土師器皿片、P20から斎宮1-3期の土師器皿、P24から斎宮1-3期の土師器皿A(8)が出土することから、遺物取り上げ時に柱掘方と柱痕跡とで分けていないこともあるが、少なくとも建物建設は斎宮1-2期以降、廃絶はSI11390より古い斎宮1-3期までといつていい。SB11387は調査区東隅で検出した建物で、布掘りを持つ掘方に南柱列のみ確認できる。柱間が1.2~1.3mと狭いことや斎宮跡では布掘り掘方をもつ掘立柱建物は総柱建物である例が多いことからSB11387も総柱建物の可能性が高い。方位はおよそN15°Eである。遺物はP23から斎宮1-2~3期の土師器皿A(9)が出土しており、掘方と柱痕跡からの出土か区別はしていない。少なくとも造営は斎宮1-2期に遡る可能性はあるが、重複関係からSB11386よりも新しいといえる。SB11388は調査区南東部で検出した建物で、桁行3間以上×梁行2間である。建物方向はN49°



第17図 第198-6次調査 遺物実測図 (1:4)

E、柱間寸法は桁行2.0m、梁行1.8mである。出土遺物は細片ではあるが柱穴から古代に属する土師器器片が出土する。P22からは斎宮I-3期と考えられる須恵器口縁部片（10）が出土する。掘方か柱痕跡からの出土か判然としないが、古くとも斎宮I-3期、重複関係からSB11386・SB11387よりも新しいと言えることから、奈良時代の範疇に収まる。

SA11391・11392はほぼ同じ位置に建替えられる柱列で、SB11388と方向をほぼ同じくすることから、SB11388に伴う遮蔽施設の可能性もある。出土遺物は、古代の範疇に収まる土師器器体部片や杯底部片が細片で出土した。

SK11393は、断面形状がやや船底状を呈する長辺1.5m×短辺約0.7m、検出面からの深さ約0.1mの土坑である。重複関係からSI11389よりも新しく、出土遺物は13世紀代の所産と考えられる南伊勢系土師器鍋口縁部片や4～5段階の渥美産陶器桟（13・14）・蓋（15）があり、鎌倉時代の遺構といえる。その他、ほぼ真北を向く溝4条は、出土遺物がないものの、重複関係からSI11390やSB11385よりも新しく、少なくとも平安時代以降の溝と言える。

## 7 第198-7次調査（6AL13）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉100-1、100-2、96-3

原 因 住宅建築

調査期間 令和2年10月27日～令和3年2月12日

調査面積 42.2m<sup>2</sup>

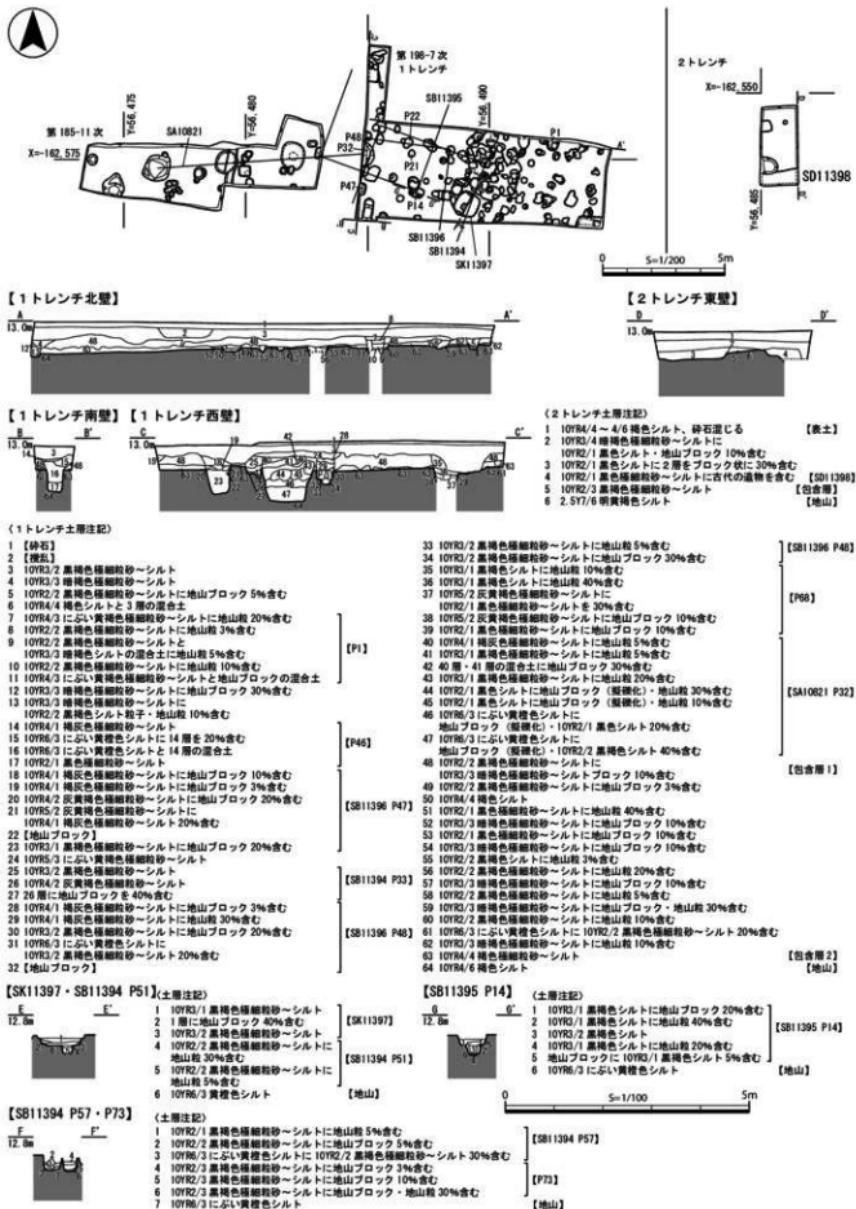
調査概要 調査地は史跡南東部、斎宮小学校から南東に約150mの地点にある宅地に位置する。住宅建築に伴う発掘調査で、調査区は2カ所に分け、南の1トレンチは東西約10m・南北3～4mで、西端部の北側を約3m分拡張し、北の2トレンチは浄化槽埋設に伴い設定した調査区で、東西約1m・南北約3mである。調査時の地表面から1トレンチでは0.25mで遺物包含層上面に、2トレンチでは調査時地表面から0.33mで遺物包含層上面に達する。なお2トレンチは近世の削平が及んでいることから、本来の遺物包含層はもう少し浅いところで確認できるものと考えられる。今回確認した平安時代を中心とした遺構はこの遺物包含層上面から切り込んでおり、本来ならばこの遺物包含層上面で遺構検出を行うべきではあるが、遺構埋土と遺物包含層の土色が類似することから、遺構誤認を避けるために地山面上に置いて遺構検出を行った。なおこの地山面までの深さは1トレンチでは0.45～0.5m、2トレンチでは0.37mである。

遺構は、掘立柱建物3棟、柱列1条、溝1条、土坑1基、建物を構成すると思われる小ピット多数である。調査時、土坑は5基を数えたが、そのうち4基については不整形を呈し、掘り下げるときビットを検出したことから、ピットの重複等により土坑状に検出されたと考え、4基については本報告では遺構番号を付与していない。

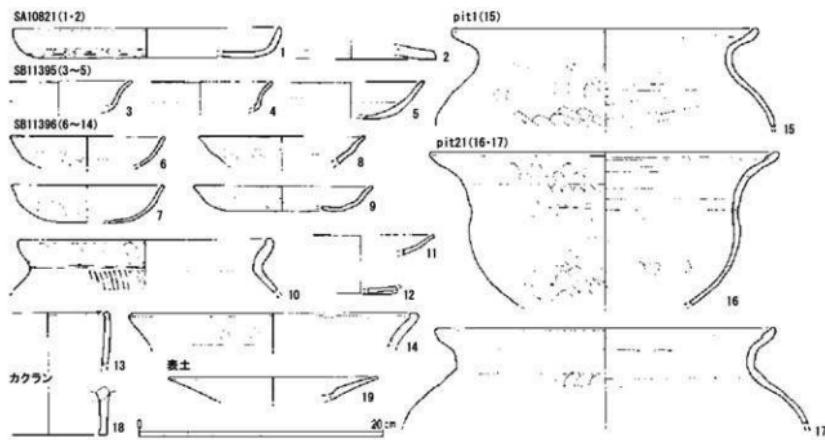
SB11395は桁行2間以上・梁行2間の南北棟と思われ、柱間は桁行、梁行とも2.0mである。柱掘方の形状は隅丸の略方形を呈し、1辺が約0.3m、柱痕跡が確認できた南東隅柱P14では柱径0.16m程度である。建物方位はN20°Eである。SB11394・11396の柱穴と重複関係にあり、SB11395がそれよりも古い段階のものとわかる。南東隅の柱穴P14から土師器杯（3～5）が出土しており、斎宮II-3期の建物であると言える。SB11394は桁行2間以上×梁行2間の南北棟と思われ、柱間は桁行1.9m、梁行は東から2.4m・2.1mである。柱掘方の形状は隅丸の方形を呈すると思われ、1辺が約0.4mである。柱痕跡は、確認できる北東隅柱のP57では、柱径は0.14mである。建物方位はN20°Eである。北の妻柱がSB11395柱掘方と、SB11395南妻柱がSB11394側柱柱掘方がそれぞれ重複関係にありSB11395よりも新しいことがわかる。また、後述する第185-11次調査で検出したSA10821の柱掘方とも重複関係にあり、SB11394が新しいことがわかる。その他、SB11394の側柱掘方がSK11397と重複関係にあり、SK11397が新しいことが判明している。SB11394の柱掘方からは図化できる土器は出土しなかったが、重複関係から斎宮II-3期よりも新しく、SK11397から図化はしていないがH-72窓式期、10世紀後半の灰釉陶器が出土していることから、SB11394は概ね10世紀前半代に収まる時期の建物と言える。SB11396は1トレンチ西部で確認した建物で、桁行2間以上・梁行2間の南北棟である。柱間は東側柱は1.9m、西側柱は2.1m、梁行は1.7mの等間である。柱掘方の形状は隅丸方形で、1辺0.3～0.35mである。柱痕跡は平面検出で確認した北東隅の



第198-7次調査区位置図 (1:2,000)



第19図 第198-7次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)



第20図 第198-7次調査 遺物実測図 (1:4)

柱で0.12mほど他の建物よりも若干細い。建物方位はN 7° Eである。他の遺構との重複関係はないが、北妻柱P22から土師器杯（6～9）・壺（10）、北西隅柱P48から灰釉陶器皿（11）、西側柱P47からは黒色土器碗底部（12）・土師器鉢（13）・壺（14）が出土し、それらの年代から斎宮Ⅲ-1～2期、10世紀後半～11世紀代の所産と考えられることから、この土器が掘方あるいは柱痕跡からの出土かは確認していないが、およそ11世紀代に機能した建物と考えられる。

SA10821は平成27年度第185-11次調査で検出した柱間寸法約3.0mの柱列で、今回、建物にまとまる南北柱列の検出を期待したが、調査区の制約はあるものの、延長の東端部柱P32を確認するに止まった。P32は調査区西壁際、大半が調査区外へと広がる隅丸方形の柱掘方で、調査区内で確認する掘方規模は南北1.05m、遺物包含層上面からの深さは1m程度である。柱掘方からの出土遺物として土師器皿（1）があり斎宮Ⅰ-3期の所産と考えられ、その他高杯脚部（2）も同時期と考えられることから、SA10821は奈良時代後期、8世紀後半と言える。2トレンチで検出したSD11398は東西方向の溝で幅0.6m以上、遺構包含層上面からの深さは約0.2mである。出土遺物には土師器壺口縁部片や頸部～部片などがあり、細片ながら奈良～平安時代初め頃の所産と考えられることから、SD11398もSA10821と同時期のもの可能性が高い。

出土遺物には、柱穴のP1からは南伊勢系土師器鍋（15・16・17）は南伊勢系第一段階、13世紀のものが出土するなど、鎌倉時代の建物も存在すると考えられる。

## 8 第198-8次調査 (6AR13)

**調査場所** 多気郡明和町大字斎宮字牛葉572-1, 572-6

**原 因** 住宅建築

**調査期間** 令和2年11月26日～12月3日

**調査面積** 22nf

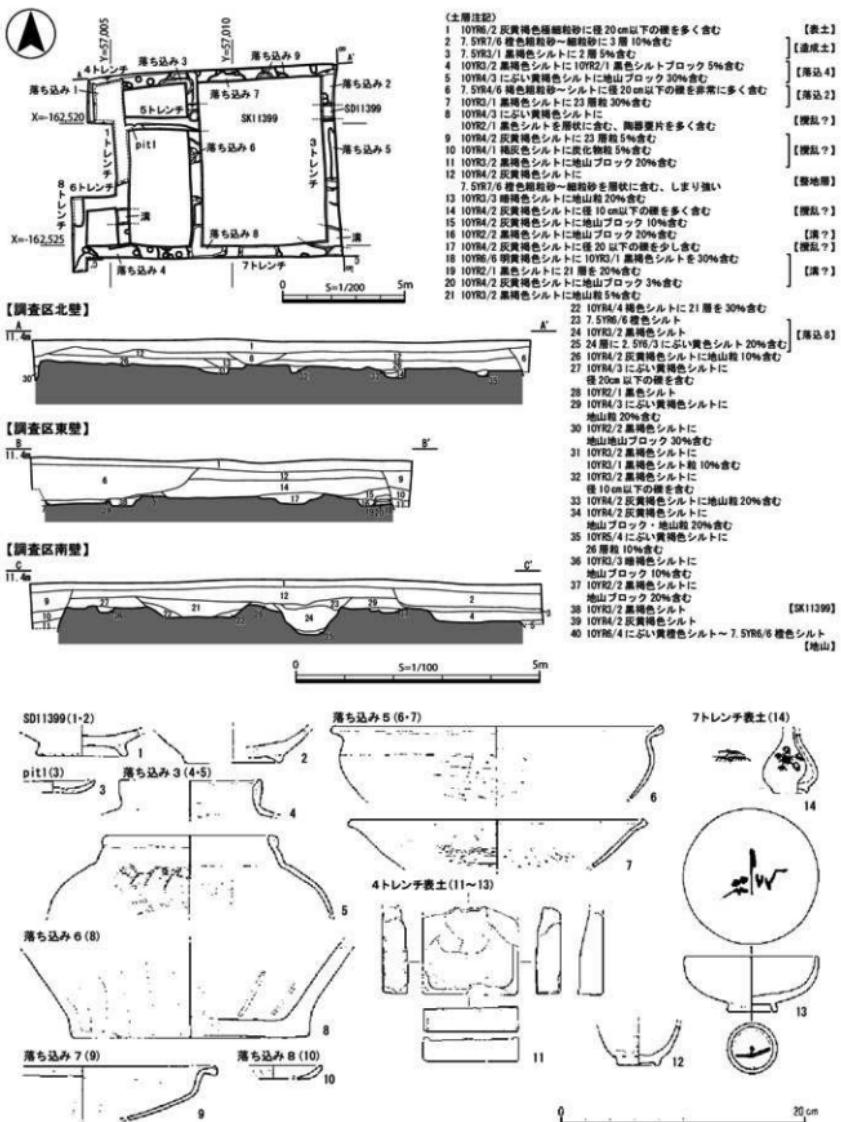
**調査概要** 調査地は史跡南東部、竹神社の南約20mの宅地である。住宅建築に伴う発掘調査で、地下遺構への影響が免れない鋼管杭の打設地点及び浄化槽設置地点に合わせて調査区を設定した。調査区北部では調査時の地表面から0.4mで地山としたにぶい黄褐色～橙色シルトが、南部では0.65mで地山面を確認したが、その上面まで近世の擾乱（落ち込み）が及ぶことから、遺物包含層及び本来の地山面は更に上面にあると考えられ



第21図 第198-8次調査区位置図 (1:2,000)

る。遺構は2条の溝を確認した。

SD11399は幅0.65mで調査区がトレンチ状であるが、3・5トレンチで確認した溝が同一と考えられ、延長8.5m以上、溝方向はE 2° Nである。底面の標高は東端で約10.2m、中央付近で約10.3m、西端で約10.2mである。断面形状は調査区東壁土層で確認すると箱形状である。出土遺物に渥美産の陶器碗（1・2）があり4型式の所産と考えられるところ



第22図 第198-8次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)・遺物実測図 (1:4)

ら、溝の埋没時期は平安時代末～鎌倉時代前期と考えられる。3・7トレンチで確認した溝は幅0.9m・延長1.2m以上で、底面の標高は10.24m、断面形状は箱状である。延長となる2トレンチでは確認できないが、1トレンチにおいて延長と考えられる溝が検出されることから、2トレンチでは削平されているものと考えられる。1トレンチで確認した標高は10.3mである。その西の8トレンチは確認した地山面が深く、1・3・7トレンチで確認した溝底面標高よりも調査標高が低いため溝延長は確認できていない。溝方向はE 5° S、出土遺物はなく、溝の機能時期等は不明である。

調査区全体にわたり確認した落ち込みは出土遺物から18世紀後半～19世紀前期のもので、ごく一部を図化したのみであるが江戸時代の伊勢街道の駆けいを偲ばせる遺物が多く出土している。

## 9 第198-9次調査 (6AK7)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字塚山3276-23, 3276-25、  
3276-27

原 因 「歴まち整備事業」にかかる公園整備事業に伴う事  
前発掘調査

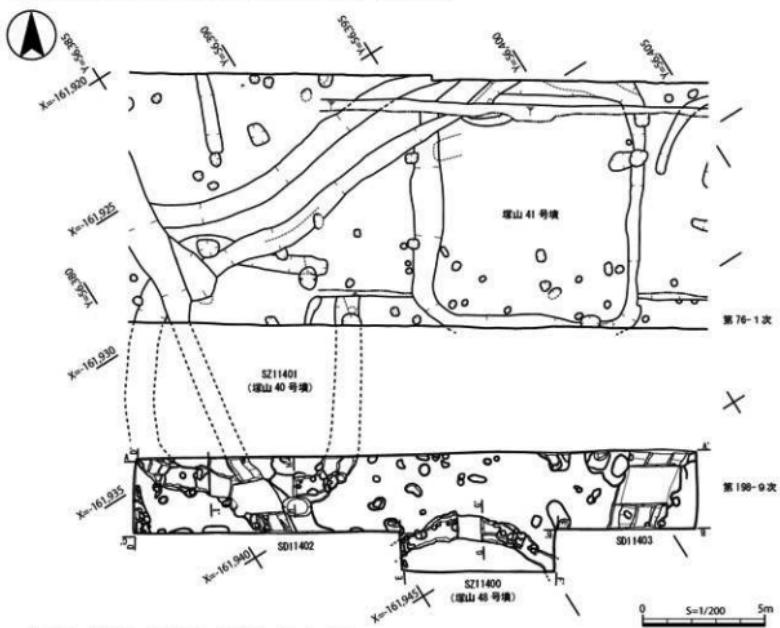
調査期間 令和3年1月14日～2月12日

調査面積 80m<sup>2</sup>

調査概要 公園整備予定地の地下遺構を確認するために実施した。調査地は史跡西部の斎宮歴史博物館東側、塚山古墳群分布域の畑地である。東西約24m、南北約3mの調査区を設定し、一部南側を拡張した。現況の地表面から0.15mで遺物包含層上面に達し、遺構はその上面から掘削されているが、遺構の認



第23図 第198-9次調査区位置図 (1:2,000)



第24図 第198-9次調査 遺構平面図 (1:200)

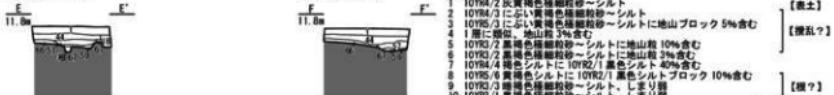
【調査区北壁】



【調査区南壁西側】



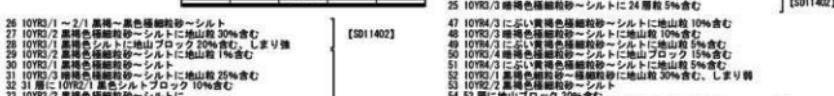
【拡張部西壁】



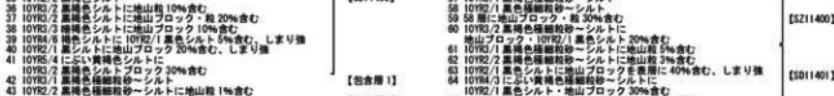
【SZ11400壁東壁】



【SZ11401壁東壁】



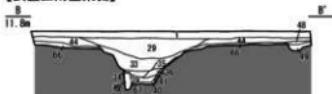
【SZ11401壁西壁】



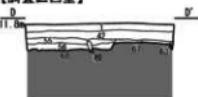
【拡張部東壁】



【調査区南壁東側】



【調査区西壁】



〔土層注記〕  
1 10YR4/2 反青褐色細粒砂～シルト  
2 10YR5/3 にこじ青褐色細粒砂～シルト  
3 10YR5/3 にこじ青褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 5%含む  
4 1 層に地山 5%含む

〔土質〕

5 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山 10%含む  
6 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山 10%含む  
7 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 40%含む  
8 10YR5/6 黄褐色シルトに 10YR2/1 黑褐色シルトブロック 10%含む  
9 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山 10%含む  
10 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山 10%含む  
11 10YR2/3 棕褐色細粒砂～シルトに 10YR2/1 黑褐色シルトを 10%含む  
12 10YR2/3 棕褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 5%含む  
13 10YR2/3 棕褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む  
14 10YR2/4 黄褐色細粒砂～シルトに地山 3%含む  
15 10YR2/3 にこじ青褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 10%含む  
16 15 層に 地山 20%含む  
17 10YR2/1 黑褐色シルト～シルトに地山ブロック 10%含む  
18 10YR2/1 黑褐色シルト 10YR2/2 黑褐色シルトブロック 40%含む  
19 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山 20%含む  
20 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む  
21 10YR2/2 黄褐色シルト～地山ブロック 20%含む  
22 10YR2/2 反青褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 40%含む  
23 10YR2/3 黑褐色シルト～地山 10%含む  
24 10YR2/3 黄褐色細粒砂～シルトに 24 层を 5%含む  
25 10YR2/3 黄褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 10%含む

〔根?〕

26 10YR2/1 ~ 2 黑褐色細粒砂～シルトに地山 50%含む  
27 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む  
28 10YR2/1 黑褐色シルトに地山ブロック 20%含む、しまり強  
29 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山 10%含む  
30 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山 10%含む  
31 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山 25%含む  
32 31 層に (10YR2/1 黑褐色シルトブロック 10%含む)  
33 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに  
34 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトブロック 10%含む  
35 10YR2/2 黑褐色シルト  
36 10YR2/2 黄褐色シルト～地山 10%含む  
37 10YR2/2 黄褐色シルト～地山 20%含む  
38 10YR2/3 棕褐色シルト～地山ブロック 10%含む  
39 10YR2/2 黄褐色シルト (10YR2/1 黑褐色シルト 5%含む) しまり強  
40 10YR2/2 黄褐色シルト～地山ブロック 20%含む、しまり強  
41 10YR2/4 にこじ青褐色細粒砂～シルト  
42 10YR2/2 黑褐色シルトブロック 50%含む  
43 10YR2/2 黑褐色シルト～シルト  
44 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山 10%含む  
45 10YR2/3 棕褐色細粒砂～シルトに地山 3%含む  
46 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山 5%含む

〔根?〕

47 10YR2/3 にこじ青褐色細粒砂～シルトに地山 10%含む  
48 10YR2/3 黄褐色細粒砂～シルトに地山 10%含む  
49 10YR2/3 にこじ青褐色細粒砂～シルトに地山 5%含む  
50 10YR2/4 黄褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 15%含む  
51 10YR2/3 黄褐色細粒砂～シルトに地山 10%含む  
52 10YR2/1 黑褐色細粒砂～シルトに地山 30%含む  
53 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルト  
54 53 層に 地山ブロック 30%含む  
55 10YR2/1 黑褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む  
56 10YR2/1 黑褐色細粒砂～シルトに地山ブロック 20%含む  
57 10YR2/1 黑褐色細粒砂～シルト  
58 10YR2/1 黑褐色細粒砂～シルト  
59 10YR2/2 黑褐色細粒砂～シルトに地山 5%含む  
60 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに  
61 地山ブロック 10YR2/1 黑褐色シルト 20%含む  
62 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山 3%含む  
63 10YR2/1 黑褐色シルト～地山ブロックを基層に 40%含む、しまり強  
64 10YR2/3 にこじ青褐色細粒砂～シルトに  
65 10YR2/3 黄褐色細粒砂～シルトに地山 5%含む  
66 10YR2/2 黄褐色細粒砂～シルトに地山 5%含む  
67 10YR2/3 黄褐色シルト

〔根?〕

〔根?〕

〔根?〕

〔SD11402〕

〔SD11400〕

〔SD11401〕

〔SD11403〕

〔土状〕

〔SD11400〕

〔SD11401〕

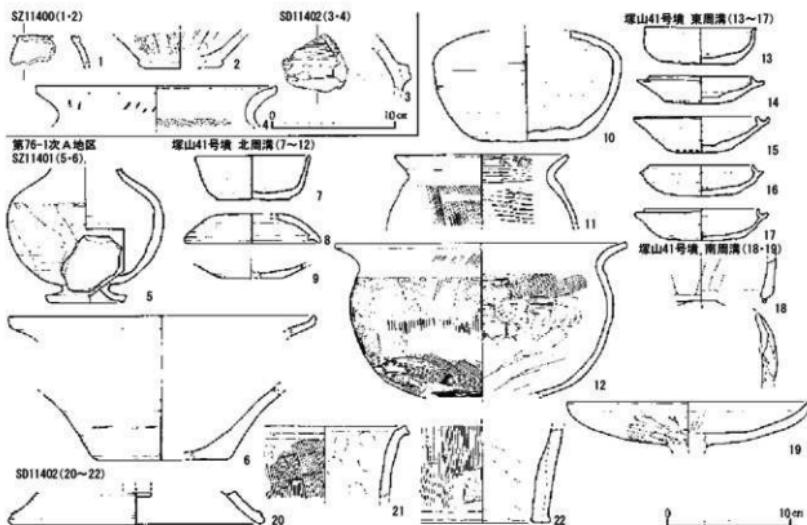
〔SD11403〕

〔地山〕

第25図 第198~9次調査 土層図 (1:100)

を避けるため、遺構検出は地山面上で行った。地山面は現地表面から0.3~0.4mで確認できる。調査区は現在、「歴史の道」として整備された博物館への道路の南に位置しているが、この歴史の道を整備する際に実施したのが昭和63年度第76~1次調査である。今回の調査で検出した遺構は、古墳の周溝2条、平安時代末~鎌倉時代の溝2条である。

SZ11401は調査区北西部で確認した溝で、第76~1次調査で確認した方墳・塚山40号墳の南周溝にあたる。検出面からの深さは、約0.3mである。第76~1次調査の成果と合わせ、南北10.5m・東西9.5mの規模に復元できる。出土遺物は今回の調査区では古墳時代後期~古代の所産と考えられる土師器壺の頭部片が出土したのみであるが、第76~1次調査区では須恵器長頸壺(1)・大型の壺(2)が出土している。SZ11400は調査区南端で確認した溝で、拡張してその広がりを確認した。調査区内で検出した規模は幅1m・延長6m以上・検出面からの深さは約0.3mである。大半が調査区外へと広がるため全体形状は不明であるが、円墳と思われる。今回、塚山48号墳とした。出土遺物は古式土師器壺の底部(2)や土師器鉢(1)口縁部片など古墳時代の所産と考えられる土師器片がわずかに出土した。



第26図 第198-9次調査・第76-1次調査A地区 遺物実測図 (1:4)

SD11402は調査区の西部、S211401に重複する溝である。調査区内では幅0.5m・延長3.5m・深さ約0.6mで、第76-1次調査でその延長が確認されており、総延長は約21mである。出土遺物には斎宮VI-1頃の陶器椀、斎宮III-1頃の灰釉陶器椀、斎宮VI期以降の土師器小皿などが出土し、SD11402の存続・埋没時期を示すものと考えられるが、朝鮮形円筒埴輪片（3）、土師器壺口縁部片（4）なども出土しており、周辺に位置する古墳からの混入と考えられる。S211403は調査区東端で確認した南北方向の溝である。幅2.2m・延長3.3m・地山面からの深さは約0.7mである。第76-1次調査地ではその延長が確認できない。古墳時代の所産と考えられる土師器片が数点出土したのみだが、古墳周溝である可能性は捨てきれない。S211401の北東に位置する塚山41号墳は、南北10.2m以上、東西9.5mと40号墳と同様南北にやや長い形状を呈し、S211401とはほぼ同規模の古墳である。周溝内からは須恵器杯G（7・14）、杯H（8・9・15～18）などが出土し、飛鳥IV～平城I期の時期と考えられる。

## 10 第198-10次調査 (6AD9・E9)

**調査場所** 多気郡明和町大字竹川字戸709番4、710番5

**原 因** 「歴まち整備事業」にかかる散策路整備

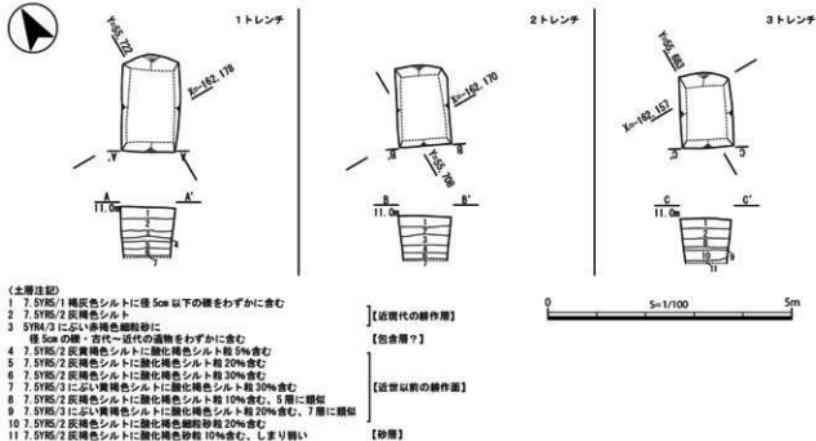
**調査期間** 令和3年1月15日

**調査面積** 3.8nf

**調査概要** 史跡西部、戸川が形成する沖積低地における散策路整備に伴い実施した発掘調査である。調査地点は、近鉄山田線北、線路盛土裾に幅1.2m×長さ1.6~2.0mのトレンチを3カ所設定した。1・2トレンチでは古代から近代の遺物を含む包含層が確認され、その直下は近世以降の耕作に由来する土層が堆積する。3トレンチでは耕作層直下で洪水堆積層状の砂層となり、1・2トレンチの3層に類する土層は確認できなかつ



第27図 第198-10次調査区位置図 (1:2,000)



第28図 第198-10次調査 遺構平面図・土層図 (1:100)

た。遺物は2トレンチ第3層から斎宮I-3期のミガキを施す土師器皿口縁部片が、3トレンチ第9・10層からは古代に所属すると思われる土師器壺体部片・小皿片などの細片のみが出土した。

## 11 第198-11次調査 (6AP13)

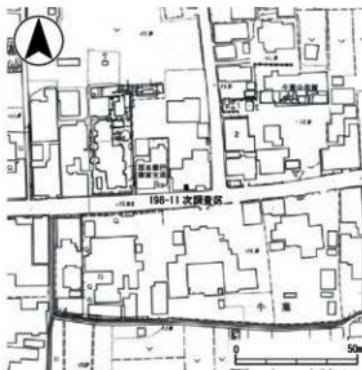
調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉3016番1

原因 浄化槽埋設

調査期間 令和3年3月1日

調査面積 1.7nf

調査概要 浄化槽の設置に伴い実施した発掘調査で、調査地は史跡中央南部の宅地である。調査区は南北約1.5m、東西約1.1mである。地表面から1.3mの深さまで近現代の擾乱土が確認され、地山面に至る。近現代の所産と考えられる東西方向の溝が確認された。周辺の調査では地表面から0.7mで地山面を確認しており、本調査区では近現代の擾乱により削平されたものと考えられる。遺物は確認されなかった。



第29図 第198-11次調査区位置図 (1:2,000)



第30図 第198-11次調査 遺構平面図・土層図 (1:100)

## 12 第198-12次調査 (6AK4)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字古里582-1582-2地先

原 因 宅地造成等

調査期間 令和3年3月1日～3月22日

調査面積 156m<sup>2</sup>

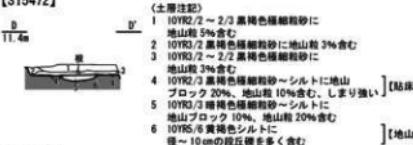
調査概要 宅地造成に伴い実施した発掘調査で、調査地は史跡北西部の畠地である。調査区のすぐ東側で第39次調査を、南側で第76-3次調査を実施している。南北約54m・幅約2mの細長い調査区に、一部を幅約4m・長さ約12m分西側に抵接した。現況の地表面から約0.2mで遺物包含層上面に達する。検出した遺構はこの上面から掘削されているが、誤認を避けるために地山面上で調査を実施した。地山面は現況地表面から南側では約0.25m、北側では約0.35mで確認され、北へ向かって地山面は傾斜する。

遺構は、弥生時代中後期の方形周溝墓4基、飛鳥～奈良時代の柱列2条、奈良時代の堅穴建物2棟のほか、飛鳥～奈良時代の土坑や柱穴、平安時代後期以降の溝や土坑を確認した。調査区北部で確認したSZ2230は第39次調査で南北東辺を確認しており、今回の調査で南辺周溝、周溝北西コーナー付近を確認した。規模は北東～南西方向11.5m×北西～南東方向10.5m以上の規模である。周溝幅は1.5～2.0m、検出面からの深さは約0.45mで、出土遺物には弥生土器広口壺（4）、古代の所産と思われる土師器鉢（5）がある。西侧拡張部で検出したSZ11404は北辺の周溝のみ確認している。規模は一辺7m以上で、周溝幅2.2m、検出面からの深さは0.45mである。出土遺物は図化できるものはないが、弥生土器壺部片、土師器壺部片、須恵器壺部片などがある。前述の2基が周溝幅の広い比較的大型の周溝墓であるのに対し、SZ2231・SZ11405は小型周溝墓となる。SZ2231は大半が第39次調査で確認されており、今回の調査で西周溝が確認され、規模が北西～南東が8.0m・北東～南西が6.7mと確定できた。周溝幅は今回の調査区で1.0m、検出面からの深さは約0.25mである。出土遺物は弥生土器壺（6）・壺（7）・高杯（8・9）などがある。

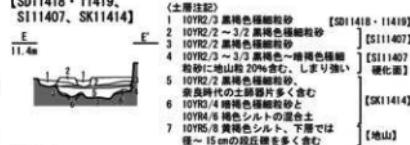


第31図 第198-12次調査区位置図 (1:2,000)

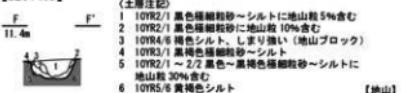
### SZ15472



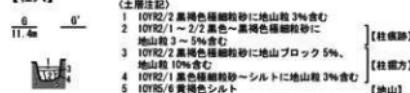
### SZ11418・11419、 S11407, SK11414】



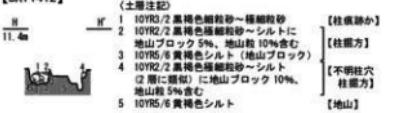
### SZ11405



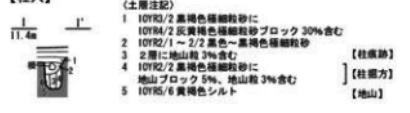
### 【柱穴】



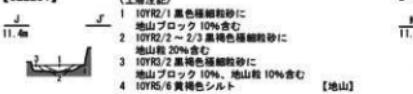
### SZ11412】



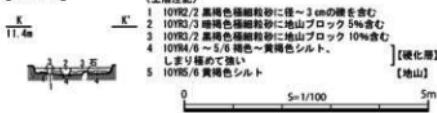
### 【柱穴】



### SZ2231】



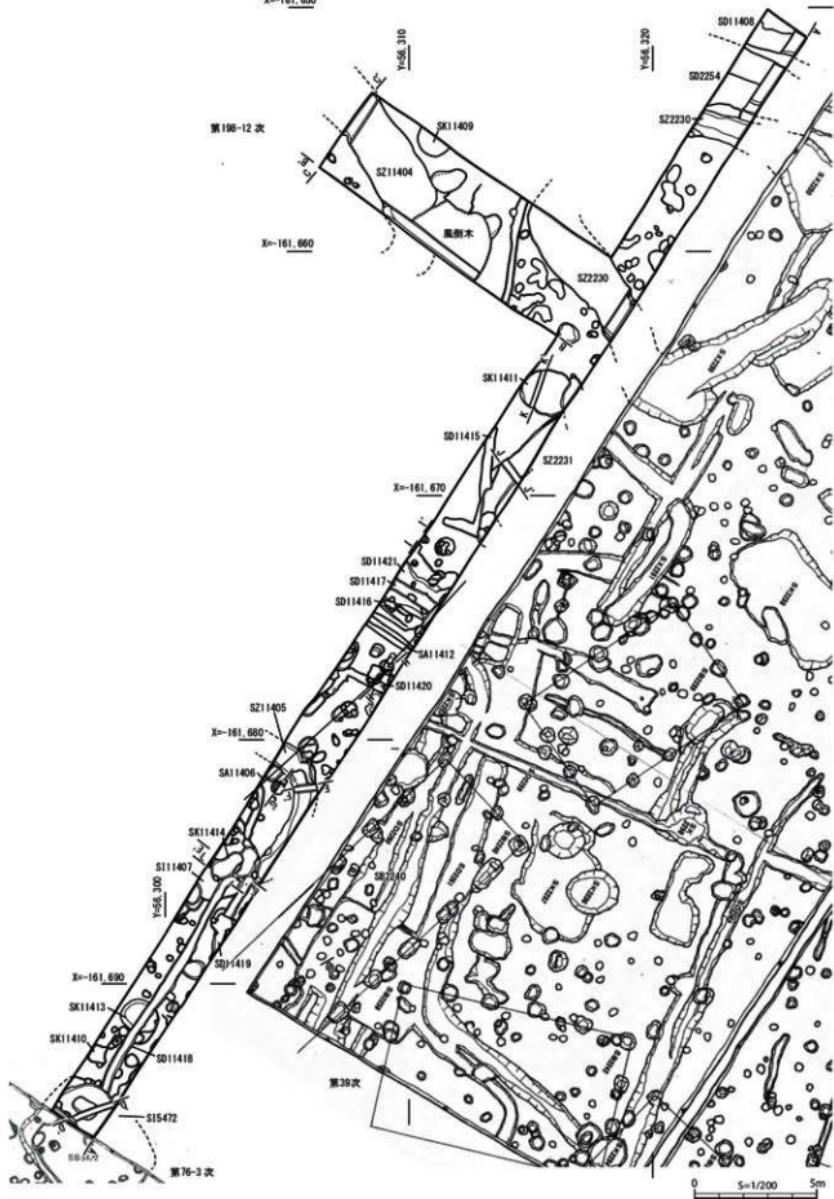
### 【SK11411】



第32図 第198-12次調査 土層図 (1) (1:100)

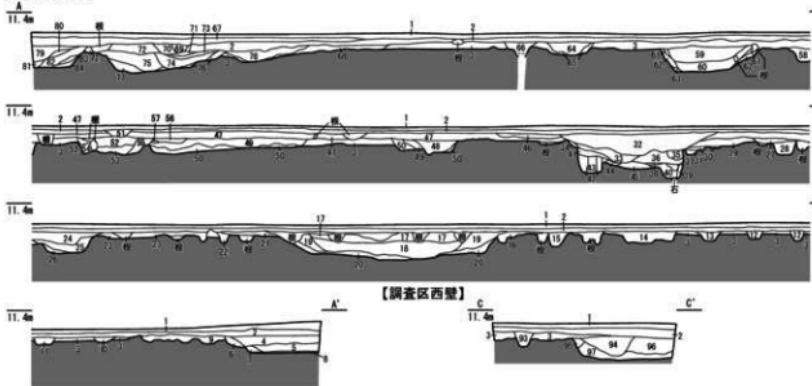


X=161,650

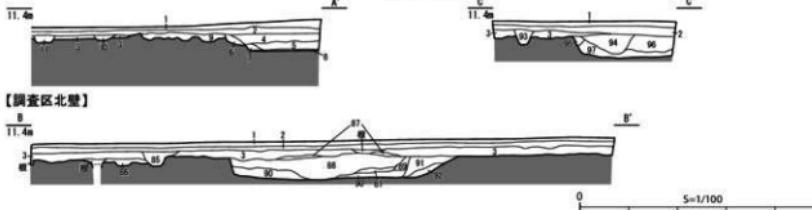


第33図 第198-12次調査 遺構平面図 (1:200)

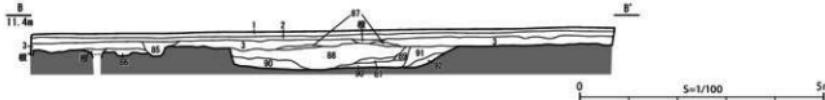
【調査区東壁】



【調査区西壁】



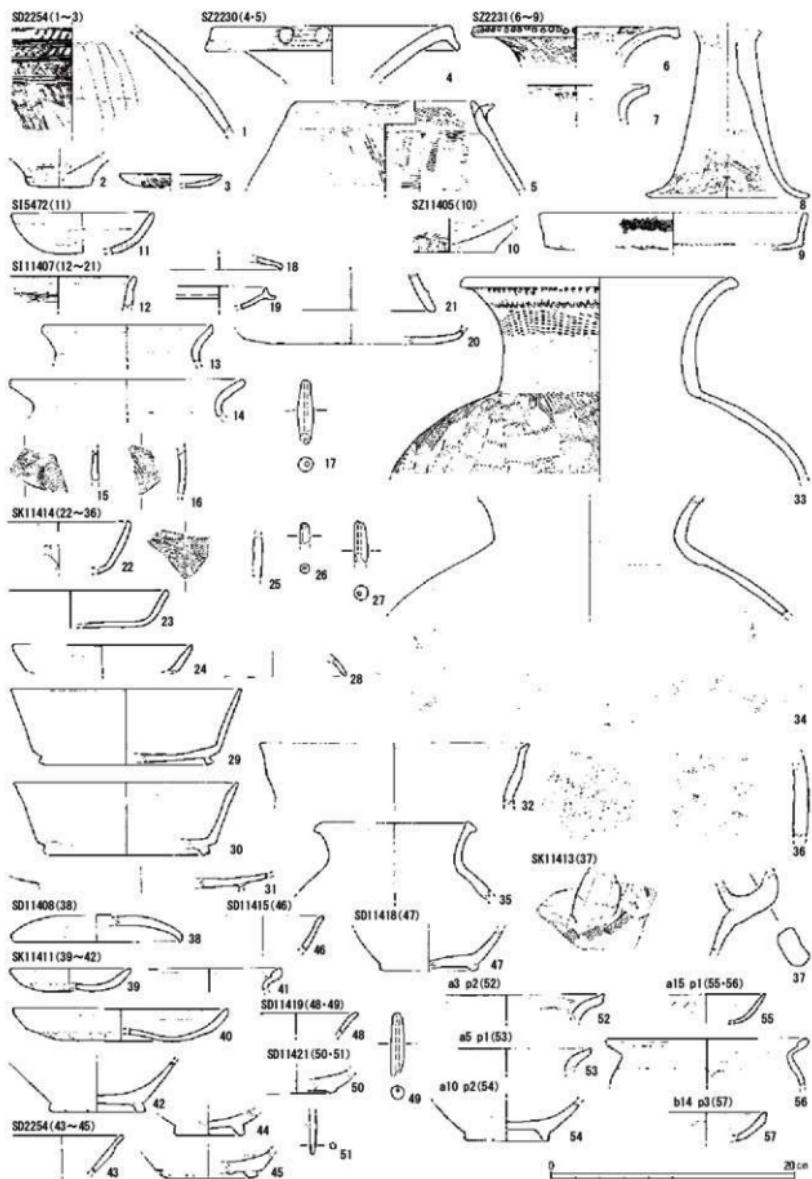
【調査区北壁】



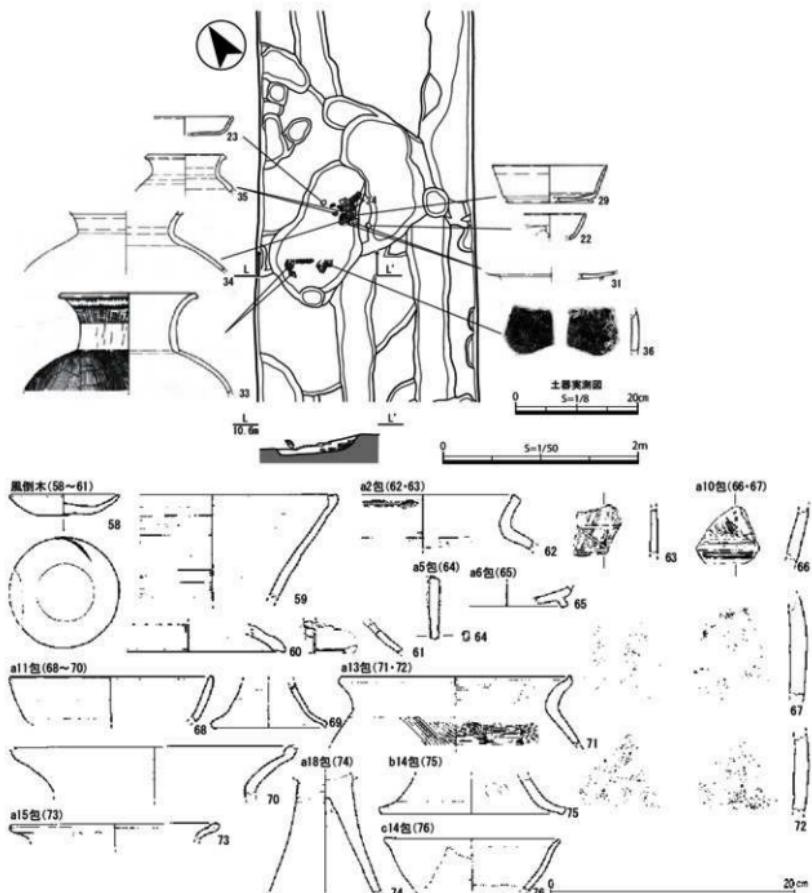
【調査区土壌注記】

- 1 10YR/3にぶい黃褐色種細粒砂に徑~5cmの根を少量含む。  
しまりやや強い  
2 10YR/2灰黃褐色種細粒砂に徑~2mmの白色粒子をごく少量含む  
3 10YR/2 黑褐色種細粒砂+シルトに地山粒5%含む  
4 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒20%含む  
5 10YR/2-2/3 黑褐色種細粒砂に地山粒5%含む  
6 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒10%含む  
7 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒3%含む  
8 10YR/2-3 黑褐色種細粒砂+シルトに地山粒20%。  
地山粒 10%含む。しまり強い  
9 10YR/3 にぶい黒褐色種細粒砂に地山粒20%。地山粒10%含む  
10 10YR/3 にぶい黒褐色種細粒砂に地山粒20%。  
11 10YR/3 黑褐色種細粒砂に地山粒10%含む  
12 10YR/3 黑褐色種細粒砂に地山粒20%。地山粒 10%含む  
13 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒10%含む  
14 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒15%含む  
15 10YR/3 黑褐色種細粒砂に  
16 10YR/2 黑褐色種細粒砂+シルトロック 10%含む  
17 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒5%含む  
18 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒5%含む  
19 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒10%含む  
20 10YR/2 黑褐色種細粒砂+シルト地山粒5%含む  
21 10YR/3 黑褐色種細粒砂と 10YR/2 黑褐色種細粒砂の混土  
22 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒 15%含む  
23 10YR/3 黑褐色種細粒砂に 10YR/2 黑褐色種細粒砂 10%含む  
24 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒20%含む  
25 10YR/2 黑褐色シルト。しまり弱い  
26 砂と地山の混土。  
27 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒 3%含む  
28 10YR/3 黑褐色種細粒砂に地山粒 20%含む  
29 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒 3%含む  
30 10YR/2 灰黃褐色種細粒砂に地山粒 15%含む  
31 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒20%。地山粒 10%含む。  
しまり強い  
32 10YR/2 灰黃褐色種細粒砂+シルトに 33 層を ブロック状に 10%含む  
33 10YR/2-2/3 黑褐色種細粒砂+シルトに 径~10cmの根を少量含む  
34 33 層に 地山ブロック 10%含む  
35 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒 2%含む  
36 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒 5%含む。しまり強い  
37 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒 20%含む  
38 10YR/2 黑褐色シルト。しまり強い  
39 10YR/2 黑褐色種細粒砂+地山ブロック 20%含む【柱状図】  
40 10YR/2 黑褐色種細粒砂+地山粒 20%含む【柱状図取穴】  
41 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒 20%含む  
42 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒 20%含む。しまり強い【柱状図】  
43 10YR/2 黑褐色種細粒砂に  
44 10YR/2 黑褐色種細粒砂 ブロック 20%含む【柱状図】  
45 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒 20%。地山粒 10%含む。  
しまり強い  
46 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒 3%含む。しまり強い  
47 10YR/2 灰黃褐色種細粒砂に地山粒 20%含む  
48 【溝】 壓土  
49 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山粒 10%含む  
50 10YR/2-2/3 黑褐色種細粒砂に地山粒 20%含む
- [S15472]
- [SD1419]
- [S211405]
- [SD11417]
- [SA14142]
- [SA14142] の  
布置図
- [S22331]
- 51 10YR/4/3 にぶい黃褐色種細粒砂  
52 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂に 径~5cmの根を含む  
53 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂に 地山ブロック 5%含む  
54 10YR/4/3 黑褐色シルトと 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂 ブロック 30%含む  
55 10YR/4/3 黑褐色種細粒砂+シルト地山粒 10%含む  
56 10YR/4/2 黑褐色種細粒砂と 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂の混土  
57 10YR/4/2 黑褐色種細粒砂+シルト (地山ブロック)  
58 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂に地山ブロック 10%。地山粒 5%含む  
59 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山ブロック 1%含む  
60 10YR/4-1/2 黑褐色種細粒砂に地山ブロック 3%含む  
61 10YR/4/2 黑褐色シルトと 10YR/2-1 黑褐色種細粒砂を 20%含む  
62 10YR/4/2 黑褐色シルトと 10YR/2-1 黑褐色種細粒砂を 10%含む  
63 10YR/4 黑褐色シルト  
64 10YR/2-1/3-2 黑褐色種細粒砂  
65 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂に地山ブロック 30%含む  
66 10YR/2-3/4 黑褐色種細粒砂  
67 10YR/4/2-3 黑褐色種細粒砂。しまり強い  
68 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂に地山粒 5%含む  
69 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂+シルトに 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂  
70 10YR/2-3/4 黑褐色種細粒砂  
71 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂+シルトに  
72 10YR/2-1/2 黑褐色シルト+地山種細粒砂に地山粒 3%含む  
73 10YR/2-3 黑褐色種細粒砂+シルトに  
74 10YR/2-2-3 黑褐色種細粒砂+シルトに  
75 10YR/2-3 黑褐色シルト+ブロック 20%含む  
76 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山ブロック 3%含む  
77 10YR/2-1/2 黑褐色シルト+地山種細粒砂に地山粒 5%含む  
78 10YR/2-3/4 黑褐色種細粒砂+シルト  
79 10YR/2-2-3 黑褐色シルト+地山種細粒砂  
80 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂に地山粒 10%の根を少々含む  
81 10YR/2-1/2 黑褐色シルト+地山種細粒砂に 径~10cmの根を少々含む  
82 10YR/2-2-3 黑褐色種細粒砂に地山ブロック 5%含む  
83 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂+シルトに 10YR/2-1 黑褐色種細粒砂を 20%。  
根~10cmの根を多く含む  
84 10YR/2-1/2 黑褐色シルト+地山種細粒砂に 径~10cmの根を少々含む  
85 10YR/2-3/4 黑褐色シルト+地山種細粒砂に地山ブロック 3%含む  
86 10YR/2-2-3 黑褐色種細粒砂に地山粒 15%含む  
87 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂に地山粒 10%含む。根~10cmの根を多く含む  
88 10YR/2-1/2 黑褐色シルト+地山種細粒砂に 径~10cmの根を少々含む  
89 10YR/4/2 黑褐色シルトと 10YR/2 黑褐色種細粒砂 ブロックを 20%。  
根~10cmの根を多く含む  
90 10YR/4/6 黑褐色シルトと 10YR/2 黑褐色種細粒砂の混合に  
根~20cmの根を非常に多く含む  
91 10YR/2-2 黑褐色シルト+地山種細粒砂に地山ブロック 10%。  
根~10cmの根を多く含む  
92 10YR/4/6 黑褐色シルトと 10YR/2 黑褐色種細粒砂の混合に  
93 10YR/2-1/2 黑褐色シルト+地山種細粒砂に  
94 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂+シルト ブロック 10%含む  
95 10YR/2-1/2 黑褐色シルト+地山種細粒砂に地山粒 1%含む  
96 10YR/2 黑褐色シルト  
97 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山ブロック 3%。地山粒 1%含む  
98 10YR/2-2 黑褐色種細粒砂に地山粒 30%含む  
99 10YR/4/6 黑褐色シルトと 10YR/2 黑褐色種細粒砂の混合に  
100 10YR/2 黑褐色種細粒砂に地山ブロック 10%。  
根~10cmの根を多く含む
- [B22330]
- [SD02254]
- [S22230]
- [SD11408]
- [SD02254]
- [S22230]
- [SD11415]
- [風倒木]
- [SD11404]
- [DS11404]
- [DS11404]

第34図 第198-12次調査 土層図(2) (1:100)



第35図 第198-12次調査 遺物実測図(1) (1:4)



第36図 第198~12次調査 SK11414土器出土状況図(1:50)・遺物実測図(2)(1:4)

調査区南部で確認したSZ11405は北東~南西5.5m以上、北西~南東2.2m以上の方方形周溝墓で、周溝幅1.0m・検出面からの深さ0.5mである。出土遺物で図化したものには弥生土器壺底部(10)があるが、これ以外はほとんど見られなかった。飛鳥~奈良時代の遺構として、SA11406、SA11412がある。SA11406は4間分の柱を確認しているが、調査区が狭小なため、西側に広がる掘立柱建物の可能性がある。SA11412はSA11406のすぐ北側に位置し、南から2番目の柱穴と3番目の柱穴の間には溝が見られることから、布掘りを伴なう可能性がある。これについても西側の未調査部分に広がる掘立柱建物の可能性がある。この他にも柱痕跡を持つピットを複数確認しており、更に建物が存在した可能性がある。奈良時代の遺構として調査区南端で確認したS15472、その北約9mの地点で確認したS111407がある。S15472は第76~3次調査で大半を確認している堅穴建物で、北西~南東5.0m×北東~南西4.0mの規模を持つ。検出面からの深さは約0.2mである。調査区内では主柱穴を確認できなかった。床面全体に張床を施し、貼床下土坑が確認できた。出土遺物には図化した土師器壺(11)のほか、土師器壺部片が多数ある。S111407は北東~南西4.0m×北西~南東3.8m以上、検出面からの深さ約0.2mである。貼床が施され、橢円形を呈する1.4m×0.6mの貼床下土坑

SK11414が確認された。SK11414からは土師器杯（22）・皿（23）、須恵器杯（29）・盤（31）・壺（33・34）・壺（35）、韓式系軟質土器壺（36）等がまとまって出土した。

調査区の中央を横断するSD11416・11417・11421は鎌倉時代～近世の溝で、第39次調査で確認した溝の延長であると思われるが、対応関係が不明であり新たな番号を付与した。第39次調査で確認した南北方向の溝と関連して、屋敷地を形成する区画溝の可能性がある。

その他の出土遺物には、ヘラ記号を持つ土師器壺体部片（15・16・25）、韓式系軟質土器片（66・67・72）、須恵器円面鏡（61）などがある。

### 13 第198-13次調査（6AS8・S9）

調査場所 多気郡明和町大字畜宮字西加座地内

原 因 「歴まち整備事業」にかかる排水路改修

調査期間 令和2年10月26日～令和3年3月30日

調査面積 30.5m<sup>2</sup>

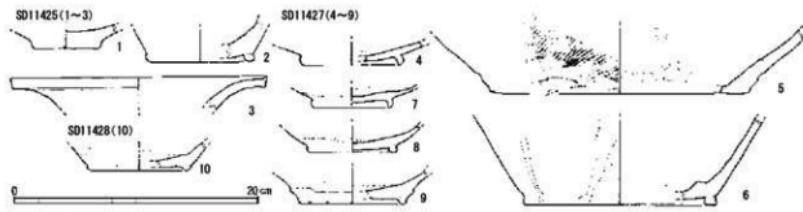
調査概要 史跡東部において、排水路の改修及び既設水管の移設にかかる現状変更に伴い実施した発掘調査である。既設道路を機能させながらの調査であったため、道路下の既設水管移設に伴い2カ所（1・2トレンチ）、排水溝の改修に伴い4カ所（3・4・5・6トレンチ）に分けて調査を行った。調査地点は方格街区の西加座北区画にあたる。近世以降の改が深くまで及んでおり、遺物包含層は確認できず、地山面で構築検出を行った。最も北に位置する2トレンチでは現況地表面である道路上から0.9m、南の5トレンチでは0.6mで地山面が確認できる。

遺構は、東西方向の溝2条、南北方向の溝2条の他、土坑、ピットがある。1トレンチで検出した東西方向のSD11426は、位置関係から第51次調査で確認した北辺道路南側溝（SD291）と同一の溝の可能性が高い。既設排水管による掘削のため規模や断面形状等全体形状が不明であり、出土遺物はない。2トレンチで確認したSD11425はSD11426に並行する。検出面出土遺物には渥美産の陶器壺（1）・壺（2）のほか、図化はしていないが土師器瓶体部片が第4層から出土している。3～5トレンチで検出した南北方向のSD11427は旧排水溝の下層においても残存し、6トレンチでもその下層部を確認した。断面形状は箱型を呈し、地山面からの深さは4トレンチに置いては0.8m、底部標高は約8.7mであるが3トレンチ北端では底部標高9.0m、5トレンチ南端では底部標高9.4mである。出土遺物には灰釉陶器皿（4）、陶器鉢（5・6）、特に下層からの遺物として9世紀代の灰釉陶器壺（7・8）、それよりもやや時期の下がる陶器壺（9）等があるが、近世の瓦や陶器類も下層などから出土していることからこの溝の機能・埋没時期は近世にまで下がると考えられる。

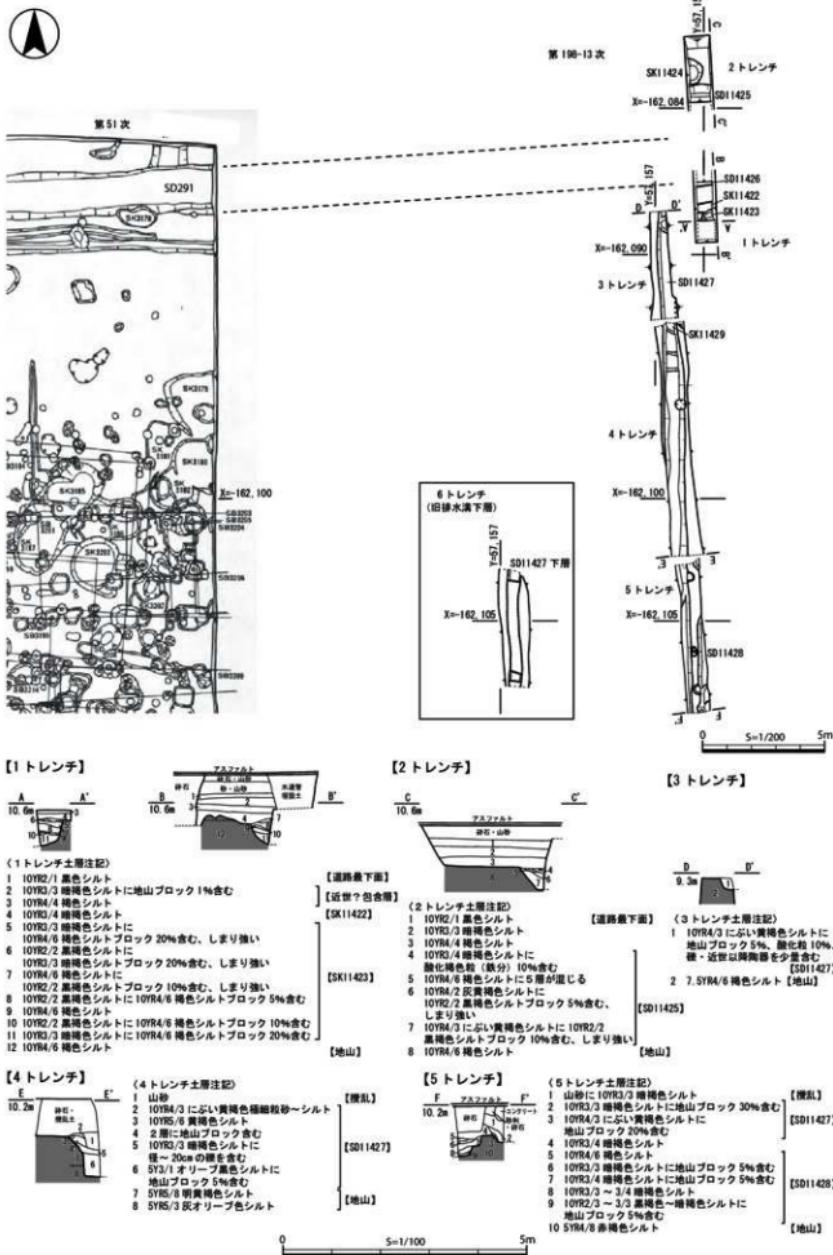
5トレンチ中央付近から確認されたSD11428は土層断面からSD11427よりも古い時期の溝で、地山面からの深さは0.4m、底部標高は約9.1m、断面形状は箱型を呈する。出土遺物には陶器壺（10）がある。SD11428は形状やその位置から、西加座北区画を東西に分割する区画間道路の東側溝の可能性がある。



第37図 第198-13次調査区位置図 (1:2,000)



第38図 第198-13次調査 遺物実測図 (1:4)



第39図 第198-13次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

次数	遺構名	調査時期	出土遺物	備考
198-1			遺構なし	
198-2	SD 4335	唐	平安時代以前	圓筒形・土器類
198-3	SD 11369	唐1	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類、口付土器類、灰釉陶器、石器
	SD 11370	唐2	平安時代	土器類
	SK 11371	唐3	平安時代～南朝時代	土器類、口付土器類、灰釉陶器
	SK 11372	唐4	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類、口付土器類
198-4	SD 11390	建物1	平安時代以前	土器類
		平安時代以前	土器類	柱穴
	SD 11375	唐1	平安時代以前	土器類、火薙器、陶製桶、土器
	唐2	平安時代以前	土器類	
	唐3	不明	土器類	
	SD 11060	唐4	鎌倉時代	土器類、瓦質器、灰釉陶器、陶製桶
	SD 11371	唐	平安時代以前	土器類
198-5	SD 11379	唐1	平安～鎌倉	土器類灰陶・黑・白
	SD 11380	唐2	平安	土器類、鐵製錠等
	SD 11382	唐3	古代以降	土器類等
	SD 3504	唐4	平安時代前期～	土器類灰陶・白、コロコ土器類底部。瓦質陶片A・焼体碎片、灰釉陶器類
	SK 11378	土坑1	平安時代前葉	土器類灰陶A・白、瓦質陶片A・新灰・新灰瓦・白。瓦質陶片碗底(底・底)、灰・灰・灰
		土坑2	平安時代	土器類灰陶片・灰・灰
	SK 11383	土坑3	西代	土器類灰陶片、土器類燒成碎片
	SK 11384	土坑4	西代	土器類灰陶片
198-6	SD 11385	建物1	平安～後醍醐	土器類灰陶・土器類灰陶・土器類灰陶・白・燒体灰陶
	SD 11386	建物2	後醍醐	土器類灰陶A・白・燒体灰陶
	SD 11387	建物3	後醍醐	土器類灰陶A・白・燒体灰陶片
	SD 11388	建物4	後醍醐	土器類灰陶片・燒体灰陶・施釉灰陶
	SA 11391	墓1	古代	なし
	SA 11392	墓2	古代	なし
	SA 11393	墓3	古代	なし
	SA 11394	墓4	古代	なし
	SA 11395	墓5	古代	なし
	SD 11396	墓6	古代	なし
	SD 11397	墓7	古代	なし
	SD 11398	墓8	古代	なし
	SD 11399	墓9	古代	なし
198-7	SA 10821	SA10821	平安時代以前～鎌倉時代	土器類
	SD 11394	建物1	平安時代後葉	土器類灰陶・燒体灰陶
	SD 11395	建物2	平安時代後葉	土器類灰陶・白・燒体灰陶
	SD 11396	建物3	平安時代後葉	土器類灰陶・白・燒体灰陶
	SD 11397	建物4	平安時代後葉	土器類灰陶・白・燒体灰陶・施釉灰陶
	SD 11398	墓1	後醍醐～鎌倉	土器類灰陶・白・燒体灰陶
	SD 11399	墓2	後醍醐～鎌倉	土器類灰陶・白・燒体灰陶
198-8	SD 11399	墓3	後醍醐～鎌倉	土器類灰陶・白・燒体灰陶
	SD 11399	墓4	後醍醐～鎌倉	土器類灰陶・白・燒体灰陶
	SD 11399	墓5	後醍醐～鎌倉	土器類灰陶・白・燒体灰陶
	SD 11399	墓6	後醍醐～鎌倉	土器類灰陶・白・燒体灰陶
	SD 11399	墓7	後醍醐～鎌倉	土器類灰陶・白・燒体灰陶
	SD 11399	墓8	後醍醐～鎌倉	土器類灰陶・白・燒体灰陶
	SD 11399	墓9	後醍醐～鎌倉	土器類灰陶・白・燒体灰陶
198-9	SD 11400	墓1	古代時代	圓筒形灰陶器・土器類
	SD 11401	墓2	平安時代	土器類灰陶・土器類、灰釉陶器・施釉陶器・円筒埴輪
	SD 11402	墓3	平安時代	土器類灰陶・土器類
	SD 11403	墓4	平安時代	土器類灰陶・土器類
	SD 11404	墓5	平安時代	土器類灰陶・土器類
	SD 11405	墓6	平安時代	土器類灰陶・土器類
	SD 11406	墓7	平安時代	土器類灰陶・土器類
	SD 11407	墓8	平安時代	土器類灰陶・土器類
	SD 11408	墓9	平安時代	土器類灰陶・土器類
	SD 11409	墓10	平安時代	土器類灰陶・土器類
	SD 11410	墓11	平安時代	土器類灰陶・土器類
	SD 11411	墓12	平安時代	土器類灰陶・土器類
	SD 11412	墓13	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11413	墓14	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11414	墓15	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11415	墓16	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11416	墓17	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11417	墓18	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11418	墓19	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11419	墓20	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11420	墓21	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11421	墓22	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11422	墓23	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11423	墓24	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11424	墓25	平安時代後葉～鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11425	墓26	鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11426	墓27	鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11427	墓28	鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11428	墓29	鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
	SD 11429	墓30	鎌倉時代	土器類灰陶・白・燒・瓦質陶器・白・燒・燒成不良・円筒埴輪
198-10			遺構なし	
198-11			遺構なし	
198-12	SD 2230	唐3・唐4	奈生後期	弥生土器・土師器
	SD 2231	唐5	奈生後期	弥生土器・土師器
	SD 11404	方形壙塚墓2	奈生後期	弥生土器・土師器
	SD 11405	方形壙塚墓3	奈生後期	弥生土器・土師器
	SD 11406	唐12	奈生後期	なし
	SD 11407	奈生後期	奈生後期	なし
	SD 11408	奈13	奈生後期	土器類灰陶・煙
	SD 11409	奈14	奈生後期	土器類灰陶・煙
	SD 11410	奈15	奈生後期	土器類灰陶・煙
	SD 11411	奈16	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11412	奈17	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11413	奈18	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11414	奈19	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11415	奈20	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11416	奈21	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11417	奈22	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11418	奈23	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11419	奈24	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11420	奈25	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11421	奈26	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11422	奈27	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11423	奈28	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11424	奈29	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11425	奈30	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11426	奈31	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11427	奈32	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11428	奈33	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11429	奈34	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
	SD 11430	奈35	奈生後期	土器類灰陶・煙・白・燒・瓦質陶器・陶製桶
198-13	SK 11422	墓1	不明	なし
	SK 11423	墓2	不明	なし
	SK 11424	墓3	不明	なし
	SK 11425	墓4	不明	なし
	SK 11426	墓5	不明	なし
	SK 11427	墓6	不明	なし
	SK 11428	墓7	不明	なし
	SK 11429	墓8	不明	なし
	SK 11430	墓9	不明	なし
	SK 11431	墓10	不明	なし
	SK 11432	墓11	不明	なし
	SK 11433	墓12	不明	なし
	SK 11434	墓13	不明	なし
	SK 11435	墓14	不明	なし
	SK 11436	墓15	不明	なし
	SK 11437	墓16	不明	なし
	SK 11438	墓17	不明	なし
	SK 11439	墓18	不明	なし
	SK 11440	墓19	不明	なし
	SK 11441	墓20	不明	なし
	SK 11442	墓21	不明	なし
	SK 11443	墓22	不明	なし
	SK 11444	墓23	不明	なし
	SK 11445	墓24	不明	なし
	SK 11446	墓25	不明	なし
	SK 11447	墓26	不明	なし
	SK 11448	墓27	不明	なし
	SK 11449	墓28	不明	なし
	SK 11450	墓29	不明	なし
	SK 11451	墓30	不明	なし
	SK 11452	墓31	不明	なし
	SK 11453	墓32	不明	なし
	SK 11454	墓33	不明	なし
	SK 11455	墓34	不明	なし
	SK 11456	墓35	不明	なし
	SK 11457	墓36	不明	なし
	SK 11458	墓37	不明	なし
	SK 11459	墓38	不明	なし
	SK 11460	墓39	不明	なし
	SK 11461	墓40	不明	なし
	SK 11462	墓41	不明	なし
	SK 11463	墓42	不明	なし
	SK 11464	墓43	不明	なし
	SK 11465	墓44	不明	なし
	SK 11466	墓45	不明	なし
	SK 11467	墓46	不明	なし
	SK 11468	墓47	不明	なし
	SK 11469	墓48	不明	なし
	SK 11470	墓49	不明	なし
	SK 11471	墓50	不明	なし
	SK 11472	墓51	不明	なし
	SK 11473	墓52	不明	なし
	SK 11474	墓53	不明	なし
	SK 11475	墓54	不明	なし
	SK 11476	墓55	不明	なし
	SK 11477	墓56	不明	なし
	SK 11478	墓57	不明	なし
	SK 11479	墓58	不明	なし
	SK 11480	墓59	不明	なし
	SK 11481	墓60	不明	なし
	SK 11482	墓61	不明	なし
	SK 11483	墓62	不明	なし
	SK 11484	墓63	不明	なし
	SK 11485	墓64	不明	なし
	SK 11486	墓65	不明	なし
	SK 11487	墓66	不明	なし
	SK 11488	墓67	不明	なし
	SK 11489	墓68	不明	なし
	SK 11490	墓69	不明	なし
	SK 11491	墓70	不明	なし
	SK 11492	墓71	不明	なし
	SK 11493	墓72	不明	なし
	SK 11494	墓73	不明	なし
	SK 11495	墓74	不明	なし
	SK 11496	墓75	不明	なし
	SK 11497	墓76	不明	なし
	SK 11498	墓77	不明	なし
	SK 11499	墓78	不明	なし
	SK 11500	墓79	不明	なし
	SK 11501	墓80	不明	なし
	SK 11502	墓81	不明	なし
	SK 11503	墓82	不明	なし
	SK 11504	墓83	不明	なし
	SK 11505	墓84	不明	なし
	SK 11506	墓85	不明	なし
	SK 11507	墓86	不明	なし
	SK 11508	墓87	不明	なし
	SK 11509	墓88	不明	なし
	SK 11510	墓89	不明	なし
	SK 11511	墓90	不明	なし
	SK 11512	墓91	不明	なし
	SK 11513	墓92	不明	なし
	SK 11514	墓93	不明	なし
	SK 11515	墓94	不明	なし
	SK 11516	墓95	不明	なし
	SK 11517	墓96	不明	なし
	SK 11518	墓97	不明	なし
	SK 11519	墓98	不明	なし
	SK 11520	墓99	不明	なし
	SK 11521	墓100	不明	なし
	SK 11522	墓101	不明	なし
	SK 11523	墓102	不明	なし
	SK 11524	墓103	不明	なし
	SK 11525	墓104	不明	なし
	SK 11526	墓105	不明	なし
	SK 11527	墓106	不明	なし
	SK 11528	墓107	不明	なし
	SK 11529	墓108	不明	なし
	SK 11530	墓109	不明	なし
	SK 11531	墓110	不明	なし
	SK 11532	墓111	不明	なし
	SK 11533	墓112	不明	なし
	SK 11534	墓113	不明	なし
	SK 11535	墓114	不明	なし
	SK 11536	墓115	不明	なし
	SK 11537	墓116	不明	なし
	SK 11538	墓117	不明	なし
	SK 11539	墓118	不明	なし
	SK 11540	墓119	不明	なし
	SK 11541	墓120	不明	なし
	SK 11542	墓121	不明	なし
	SK 11543	墓122	不明	なし
	SK 11544	墓123	不明	なし
	SK 11545	墓124	不明	なし
	SK 11546	墓125	不明	なし
	SK 11547	墓126	不明	なし
	SK 11548	墓127	不明	なし
	SK 11549	墓128	不明	なし
	SK 11550	墓129	不明	なし
	SK 11551	墓130	不明	なし
	SK 11552	墓131	不明	なし
	SK 11553	墓132	不明	なし
	SK 11554	墓133	不明	なし
	SK 11555	墓134	不明	なし
	SK 11556	墓135	不明	なし
	SK 11557	墓136	不明	なし
	SK 11558	墓137	不明	なし
	SK 11559	墓138	不明	なし
	SK 11560	墓139	不明	なし
	SK 11561	墓140	不明	なし
	SK 11562	墓141	不明	なし
	SK 11563	墓142	不明	なし
	SK 11564	墓143	不明	なし
	SK 11565	墓144	不明	

第198-2次調查

品目	規格	単位	数量	原产地	貿易手数料	税金	税金額	税金率	支拂税金額
1 糖蜜海苔	海苔	袋	100袋	韓国	内税 内税+輸出税	調査 調査+輸出税	税 税+輸出税	10%	10袋の税金額
2 油漬 小豆	小豆	袋	10袋	日本	内税 内税+輸出税	調査 調査+輸出税	税 税+輸出税	10%	10袋の税金額

第1個-3次讀寫

第1回：資源開拓									
順位	種別	資源名	土地面積	初期生産量	初期貯蔵量(t)	初期生産額(万円)	初期貯蔵額(万円)	初期生産率(%)	初期貯蔵率(%)
1	土耕地	米(土耕地)	1.0ha	1.0t	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%
2	採掘場	銅(採掘場)	1.0ha	1.0t	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%
3	農作物	米(農作物)	1.0ha	1.0t	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%
4	農作物	米(農作物)	1.0ha	1.0t	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%
5	農作物	米(農作物)	1.0ha	1.0t	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%
6	農作物	米(農作物)	1.0ha	1.0t	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%
7	農作物	米(農作物)	1.0ha	1.0t	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%
8	農作物	米(農作物)	1.0ha	1.0t	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%
9	農作物	米(農作物)	1.0ha	1.0t	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%
10	農作物	米(農作物)	1.0ha	1.0t	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%

第1個-4次調查

第1例-5次調査

第3表 第198次調査 出土遺物一覧表(1)

第1课-新太陽能

第108-7次調查

第198-8次調查

番号	場所	種類	目立たせる	特徴	種類	目立たせる	特徴	参考	登録年月日
2	海原 島	鳥	0111109 上空1	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飛行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01
3	海原 島	鳥	0111109 上空1	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飛行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01
4	土居町 小根	鳥	0111 P1	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飛行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01
5	土居町 高瀬	鳥	0111109 飛行中10m	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飞行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01
6	土居町 高瀬	鳥	0111109 飛行中10m	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飞行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01
7	土居町 高瀬	鳥	0111109 飛行中10m	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飞行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01
8	土居町 高瀬	鳥	0111109 飛行中10m	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飞行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01
9	土居町 高瀬	鳥	0111109 飛行中10m	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飞行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01
10	土居町 高瀬	鳥	0111109 飛行中10m	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飞行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01
11	木野町 船	鳥	0111109 飛行中	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飞行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01
12	海原 島	鳥	0111109 上空1	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飞行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01
13	海原 島	鳥	0111109 上空1	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飞行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01
14	海原 島	鳥	0111109 上空1	飛翔	鳥	外見: 鳥類の特徴 内見: 色、形、大きさ、飛翔、鳴き声等	飛行: 飞行距離、飛行時間	飛行距離、飛行時間	000-01

第4表 第198次調査 出土遺物一覧表（2）

第1個-9次調查

品目	種類	出荷地	出荷時期	規格区分	規格(単位)	規格(単位)	規格(注文の単位)	単位	地図	色調	当荷車	番号	登録品番
上田製	絲	(2210) 須	1月	汎用系	2.5	内径φ14.5×外径φ16.5 内厚φ1.5×外厚φ2.0	内径φ14.5×外径φ16.5 内厚φ1.5×外厚φ2.0	個	魚	魚 14.5mmの個	1	(40)02	
上田製	繩	(2210) 須	1月	汎用系	4.0	内径φ14.5×外径φ16.5 内厚φ1.5×外厚φ2.0	内径φ14.5×外径φ16.5 内厚φ1.5×外厚φ2.0	個	魚	魚 14.5mmの個	2	(40)03	
上田製	網目繩	(2210) 須	1月	汎用系	4.0	内径φ14.5×外径φ16.5 内厚φ1.5×外厚φ2.0	内径φ14.5×外径φ16.5 内厚φ1.5×外厚φ2.0	個	魚	魚 14.5mmの個	3	(40)04	
上田製	網目繩	(2210) 須	1月	汎用系	4.0	内径φ14.5×外径φ16.5 内厚φ1.5×外厚φ2.0	内径φ14.5×外径φ16.5 内厚φ1.5×外厚φ2.0	個	魚	魚 14.5mmの個	4	(40)05	
上田製	繩	(2210) 須	1月	汎用系	2.5	内径φ14.5×外径φ16.5 内厚φ1.5×外厚φ2.0	内径φ14.5×外径φ16.5 内厚φ1.5×外厚φ2.0	個	魚	魚 14.5mmの個	5	(40)06	

第79-1次調査

第198-12次課

第5表 第198次調査 出土遺物一覧表（3）

第100-13次測量

第6表 第198次調査 出土遺物一覧表（4）

## 付編 史跡現状変更等許可申請

令和2年度に提出された史跡現状変更等許可申請は65件で、申請の内容は、一覧表（第7表）のとおりである。年度内に発掘調査を行ったのは、前年度以前の申請分も含め14件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が1件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが13件である。また、発掘調査を行わなかった51件は、小規模または工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさない場合や、すでに発掘調査を実施している箇所での申請である。なお、掘削工事等にあたっては斎宮歴史博物館調査研究課職員並びに明和町斎宮跡・文化観光課職員の工事立会のもとで実施している。これらの申請は、申請者ならびに申請内容で分類すると下記のとおりである。

### （A）個人等による申請

33件の申請があった。うち住宅新築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた7件（第198-3、4、6、7、8、11、12次調査）について調査を行った。他の26件については、住宅解体や工作物の設置等で土地利用区分の第三、四種保存地区にあたり、すでに発掘調査が行われている場合や、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

### （B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

19件の申請があった。内容は、電気・通信関係や、排水路・道路の改修等である。本年度は電気・通信の送電信網の大規模な建替工事があったことから申請件数が例年と比べて増加した。施工にあたっては、工事立会いで着工している。

### （C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

11件の申請があった。明和町歴史的風致維持向上計画に基づく史跡内環境整備に伴うものが9件あり、その内で発掘調査が必要とされた3件（第198-5、9、10次調査）について調査を実施した。その他、三重県（斎宮歴史博物館）による史跡内の維持管理に伴うものも2件あった。

### （D）発掘調査のための申請

2件の申請があった。これらは三重県が主体となって斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査（第199次調査）に伴うもので、計270.4m<sup>2</sup>が調査された。調査内容は斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行される。

行	年	小字	地名	番	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	登記	備考
1	竹川	南裏	245-1-1,247	A	個人	建築物等附地・樹木伐採	R0.4.2	R0.4.13	2畳,1本	4	
2	竹川	南裏	245-1-245,4-245-5,5-246,6-246	C	明和町長(當宮宮・文化観光課)	道路施設	R0.4.7	R0.5.22	L=136.8m	3	第1回~5次調査
3	豊富	牛屋	572-3-574-2	A	個人	住宅建築	R0.4.7	R0.5.22	16m <sup>2</sup>	3	第1回~3次調査
4	竹川	古里	575-1-5	A	個人	駐車場整備等	R0.5.7	R0.5.19	910.05m <sup>2</sup>	4	
5	竹川	古里	576-1-576-3,577-3	A	個人	土壟埋戻	R0.5.7	R0.5.19	24m <sup>2</sup>	4	
6	豊富	美津洋	2470-1-1,2470-2,2470-3	A	個人	建築物等附地・樹木伐採	R0.5.12	R0.5.19	2畳,1本	4	
7	豊富	御前	264-1-4,264-5,264-7-1,2947-3,	C	明和町長(當宮宮・文化観光課)	衆田調査	R0.5.25	R0.7.17	80m <sup>2</sup>	1	第2回~4次調査
8	豊富	牛屋	264-5-2	B	三重県知事(松坂建設事務所)	道路鋪設	R0.5.26	R0.8.9	127.2m <sup>2</sup>	3	
9	豊富	雄林	314G-1-314G-2	A	個人	ブロック等設置	R0.6.17	R0.8.25	80m <sup>2</sup>	4	
10	竹川	中裏	426-4,476-1	D	三重県知事(當宮宮史博物館)	衆田調査	R0.6.8	R0.7.17	300m <sup>2</sup>	2	第1回~2次調査
11	豊富	美院	2849-2	A	個人	住宅新築	R0.6.7	R0.7.17	92.74m <sup>2</sup>	3	第1回~4次調査
12	豊富	古里	2850-1	B	三重県知事(松坂建設事務所)	道路構造変更	R0.6.19	R0.7.2	2畳	3	
13	竹川	古里	2850-1,2850-5	A	個人	カーポート等設置	R0.7.7	R0.7.27	1畳	4	
14	豊富	牛屋	312-1-312-6	A	個人	建築物等附地・樹木伐採	R0.7.6	R0.7.27	43.5m <sup>2</sup>	3	
15	豊富	牛屋	310-1	A	個人	建築物等附地	R0.7.16	R0.8.3	214m <sup>2</sup>	4	
16	豊富	牛屋	312-6	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	電柱又壁撤去	R0.7.17	R0.8.3	1畳	4	
17	竹川	雄林	709番4,710番5	C	明和町長(當宮宮・文化観光課)	衆田調査	R0.7.21	R0.8.18	155m <sup>2</sup>	3	第1回~10次調査
18	豊富	塙山	228-1-23,3278-25-3278-27	C	明和町長(當宮宮・文化観光課)	衆田調査	R0.8.3	R0.9.18	50m <sup>2</sup>	2	第1回~9次調査
19	豊富	東前沖	2509-2	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	電柱建替	R0.8.4	R0.8.19	2畳	4	
20	豊富	古里	325番2番3	A	個人	住宅建築	R0.8.5	R0.9.16	140.4m <sup>2</sup>	3	第1回~6次調査
21	豊富	東加瀬	町道	B	明和町長(建設課)	道路構造	R0.8.21	R0.9.4	600m <sup>2</sup>	4	
22	豊富	内山	3037番地4,3037番地11,3037番地12	A	個人	ブロック等設置	R0.8.21	R0.9.4	33m <sup>2</sup>	4	
23	豊富	牛屋	3013-1	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	土線打削	R0.8.23	R0.9.4	2畳	4	
24	豊富	西古里	2721-6	A	個人	建築物等附地	R0.8.1	R0.9.16	16.9m <sup>2</sup>	4	
25	竹川	中裏	422-1	D	三重県知事	二ニットハバス等設置	R0.9.4	R0.9.4	1畳	2	
26	豊富	西古里	2721-6	A	個人	住宅建築	R0.8.7	R0.10.16	113.3m <sup>2</sup>	4	
27	豊富	西前沖	2649-4	A	個人	建築物等附地及び樹木伐採	R0.9.5	R0.9.17	90m <sup>2</sup>	4	
28	竹川	雄林	700-1,702,703,704,710,2-2,720	C	明和町長(當宮宮・文化観光課)	公園整備	R0.9.9	R0.10.16	302m <sup>2</sup>	3	
29	豊富	西古里	2649-4	A	個人	住宅建築	R0.9.5	R0.10.16	64.47m <sup>2</sup>	4	
30	豊富	牛屋	100-1,100-2,286-3	A	個人	住宅建築	R0.9.2	R0.10.19	66.3m <sup>2</sup>	3	第1回~7次調査
31	竹川	花園	8	B	西日本電信電話(株)三重支店長	電柱建替	R0.9.6	R0.9.25	4.8,1.5m	2,3	
32	竹川	古里	352-2-3,559-10,571-1,571-2,575-1, 575-2,576-3-3,576-4,574-1-2, 574-5,574-6,574-7,533-2,533-3,514-1, 514-2,514-3,514-4,514-5,514-6,514-7,514-8, 514-9,514-10,514-11,559-1,559-2, 559-3,559-4-42	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	電柱建替等	R0.9.9	R0.10.5	14本,4.6m	1,2, 3, 4	
33	竹川	古里	地先	B	西日本電信電話(株)三重支店長	支綫新設	R0.9.18	R0.10.7	1畳	3	
34	豊富	牛屋	100-1,100-2,286-3	A	個人	ブロック等設置	R0.9.25	R0.10.7	16.7m <sup>2</sup>	4	
35	豊富	塙山	327番2	A	個人	ブロック等設置	R0.9.23	R0.10.12	31,4m <sup>2</sup>	3	
36	竹川	古里	569	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	支綫打削	R0.9.29	R0.11.13	2畳	4	
37	豊富	牛屋	2999-3	A	個人	樹木伐採	R0.9.30	R0.10.20	1本	3	
38	竹川	中裏	422-1	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	電柱新設	R0.10.7	R0.10.10	1本	3	
39	豊富	牛屋	572-1,572-6	A	個人	住宅建築	R0.10.8	R0.11.20	75.06m <sup>2</sup>	3,4	第1回~8次調査
40	竹川	南裏	245-1,245-2,247	C	明和町長(當宮宮・文化観光課)	公園整備	R0.10.8	R0.11.20	4畳	3	
41	竹川	南裏	246,249	A	個人	ブロック等新設	R0.11.2	R0.11.13	15.4m <sup>2</sup>	4	
42	豊富	鶴治山	2754-2	A	個人	個人所有地	R0.11.2	R0.11.13	13.1m <sup>2</sup>	4	
43	豊富	東前沖	2487-5	A	個人	建築物等撤去	R0.11.4	R0.11.19	40.5m <sup>2</sup>	4	
44	竹川	古里	353,571	C	三重県知事(當宮宮史博物館)	二ニットハバス等設置	R0.11.20	R0.11.20	1本	3	
45	豊富	木曾川	415B-1番地	B	西日本電信電話(株)三重支店長	支綫打削	R0.11.6	R0.11.26	2本	3	
46	豊富	西古里	町道	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	電柱建替	R0.11.11	R0.11.26	4.8,1.5m	1	
47	豊富	塙山	1065-5番地	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	電柱新設	R0.11.17	R0.11.28	1.8,1.5m	4	
48	竹川	南裏	365-1,364	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	電柱建替	R0.11.24	R0.12.7	4.8,2.8m	4	
49	竹川	南裏	245-1,248	A	個人	ブロック等設置	R0.12.35	R0.12.7	31m <sup>2</sup>	3	
50	豊富	西池	558-2-558-6	C	三重県知事(當宮宮史博物館)	室内構造附地	R0.12.4	R0.12.7	1畳	3	
51	竹川	中裏	493-2,493-15	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	電柱建替	R0.12.27	R0.12.10	2.8,1.5m	2	
52	豊富	牛屋	104番地	A	個人	建築物等附地	R0.12.4	R0.12.10	126.6m <sup>2</sup>	4	
53	豊富	中西	910	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	支綫・樹木撤去	R0.12.11	R0.12.25	1.8,1.5m	4	
54	豊富	中西	2404	A	個人	建築物附地	R0.12.22	R0.12.12	115.5m <sup>2</sup>	4	
55	豊富	牛屋	2016番1	A	合同会社アンド・スカンバニー	淨化槽設置	R0.12.26	R0.12.12	5.2m <sup>2</sup>	4	第1回~11次調査
56	竹川	雄林	709番4,710番5	C	明和町長(當宮宮・文化観光課)	フェンス設置	R0.13.5	R0.12.9	1,8m <sup>2</sup>	3	
57	豊富	美院	2895番地2	A	個人	宅地造成	R0.13.7	R0.12.12	515.7m <sup>2</sup>	3	第2回~3次調査
58	竹川	古里	582-1,582-2地先	A	個人	宅地造成等	R0.13.8	R0.12.12	445.1m <sup>2</sup>	3	第1回~12次調査 第201~2次調査
59	豊富	牛屋	104番地	A	個人	ゴクリク等新設	R0.13.18	R0.12.9	27m <sup>2</sup>	4	
60	豊富	西古里	2770-3	C	明和町長(當宮宮・文化観光課)	二ニットハバス設置	R0.13.19	R0.2.8	1畳	1	
61	竹川	古里	582番1	A	個人	住宅建築	R0.13.23	R0.5.21	66.24m <sup>2</sup>	3	第201~5次調査
62	竹川	東池	361-11	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	電柱建替	R0.13.23	R0.2.25	2本	3	
63	竹川	古里	562-1,560	B	中間電力パワーゲリッド(株) 松坂建設所長	電柱・支綫新設	R0.13.22	R0.3.11	3.8,2.8m	3	
64	豊富	牛屋	579-2	A	個人	建築物等附地	R0.13.4	R0.3.11	122m <sup>2</sup>	4	
65	豊富	中西	町道内地	D	明和町長(當宮宮・文化観光課)	道路構造	R0.13.8	R0.3.16	42m <sup>2</sup>	3	

第7表 令和2年度現状変更等許可申請一覧



写真図版 1 第198-1次 調査区全景（東から）



写真図版 2 第198-2次 西調査区全景（東から）



写真図版 3 第198-3次 調査区全景（東から）



写真図版 4 第198-4次 調査区全景（南東から）



写真図版 5 第198-5次 1トレンチ全景（南から）



写真図版6 第198-6次 調査区全景（北西から）



写真図版7 第198-7次 調査区全景（南東から）



写真図版8 第198-8次 調査区全景（南西から）



写真図版9 第198-9次 調査区全景（南東から）



写真図版10 第198-10次 3トレンチ南壁土層（北東から）



写真図版11 第198-11次 調査区全景（北から）



写真図版12 第198-12次 調査区全景（南西から）



写真図版13 第198-12次 拡張部全景（北西から）



写真図版14 第198-12次 SK11414土器出土状況（南西から）



写真図版15 第198-13次 5トレンチ全景（北から）

# 報告書抄録

ふりがな	しせきさいくうあと れいわにねんどげんじょうへんこうきんきゅうはつくつちようさほうこく							
書名	史跡斎宮跡 令和2年度現状変更緊急発掘調査報告							
副書名								
卷次								
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	38							
編著者名	山中由紀子 味噌井拓志							
編集機関	斎宮歴史博物館（調査研究課） 明和町（斎宮跡・文化観光課）							
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945番地 Tel 0596(52)7126							
発行年月日	西暦 2022年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
斎宮跡	多気郡明和町 斎宮・竹川	24442	210	34° 31' 55" ~ 34° 32' 30"	136° 36' 16" ~ 136° 37' 37"	20200401 20210331	全13件 717.7m <sup>2</sup>	史跡現状変更に伴う緊急発掘調査（史跡斎宮跡第198次調査）
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
斎宮跡第198次	官衙	弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町・江戸		堅穴建物・掘立柱建物・掘立柱廻・土坑・溝・柱穴・ピット・古墳・方形周溝墓		縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・韓式系軌道土器・埴輪・綠釉陶器・白磁・灰釉陶器・黒色土器・無釉陶器・近世陶磁器・土製品・石製品・鉄製品		
要約	<p>本調査は、史跡内の現状変更に伴う緊急発掘調査である。大半の調査は住宅新築に伴う小規模なものであるが、第198-6次・第198-12次調査では奈良時代の堅穴建物を計4棟、第198-6次では奈良時代の掘立柱建物計4棟を確認するなど、特に史跡西部において重要な調査成果を得た。</p> <p>また、「歴まち整備事業」関連の第198-2・13次調査では、方格街区北東域の様相を具体的に確認できた。これらは史跡内の新たなデータとして蓄積し、今後の史跡内発掘調査報告書にも反映する。</p>							

## 史跡斎宮跡

令和2年度

### 現状変更緊急発掘調査報告

令和4(2022)年3月19日

編集 斎宮歴史博物館

発行 明和町

印刷 光出版印刷株式会社

